B6FJ-5341-02

ESPRIMO

ESPRIMO D570/B

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 セキュリティ
5 ソフトウェア
6 BIOS
7 お手入れ
8 トラブルシューティング
9 仕様

目次

本書をお読みになる前に 7

安全にお使いいただくために 7
本書の表記 7
Windowsの操作 9
商標および著作権について 10

第1章　各部名称

1.1 パソコン本体前面 12
1.2 パソコン本体背面 14
1.3 パソコン本体内部 16
1.4 メインボード 18
1.5 キーボード 19

第2章　取り扱い

2.1 マウス 22
2.1.1 注意事項 22
2.1.2 マウスの基本設定を変更する 22
2.2 ディスプレイ 23
2.2.1 注意事項 23
2.2.2 解像度を変更する 23
2.2.3 拡大表示設定を変更する 24
2.3 マルチディスプレイ機能 25
2.3.1 マルチディスプレイ機能とは 25
2.3.2 注意事項 25
2.3.3 拡張デスクトップ表示に設定する 26
2.3.4 クローン表示に設定する 26
2.3.5 シングル表示に設定する 27
2.4 サウンド 28
2.4.1 全体の再生音量を調節する 28
2.4.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する 28
2.4.3 機器や項目ごとの音量を調節する 29

2.5 省電力機能 30
2.5.1 省電力の状態について 30
2.5.2 省電力状態にする 30
2.5.3 省電力状態からレジュームする 31
2.5.4 電源を切る 32
2.5.5 省電力の設定を変更する 33
2.6 CD/DVDドライブ 35
2.6.1 注意事項 35
2.6.2 使用できるディスク 36
2.6.3 ディスクをセットする 38
2.6.4 ディスクを取り出す 39
2.6.5 ディスクに書き込む 40
2.6.6 DVD-Videoを再生する 42
2.7 通信 43
2.7.1 有線LAN 43

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 45
3.1.1 注意事項 45
3.2 本体カバー 46
3.2.1 注意事項 46
3.2.2 本体カバーを取り外す 46
3.2.3 本体カバーを取り付ける 47
3.3 メモリ 48
3.3.1 注意事項 48
3.3.2 取り付けられるメモリ 48
3.3.3 メモリを取り付ける 49
3.3.4 メモリを取り外す 50
3.4 拡張カード 51
3.4.1 注意事項 51
3.4.2 拡張カードを取り付ける 52
3.4.3 拡張カードを取り外す 54
3.5 コネクタの接続／取り外し 55
3.5.1 注意事項 55
3.5.2 ディスプレイコネクタ 55
3.5.3 USBコネクタ 56
3.5.4 音声入出力端子 57
3.5.5 LANコネクタ 58

第4章　セキュリティ

4.1 コンピューターウイルス 60
4.1.1 コンピューターウイルス対策 60
4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする 61
4.2.1 Windows Update 61
4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）........ 61
4.3 不正使用からのセキュリティ 62
4.3.1 BIOSのパスワード 62
4.3.2 セキュリティチップ 62
4.3.3 Portshutter 62
4.3.4 エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能 63
4.4 パソコンの盗難防止 64
4.4.1 パソコン本体の施錠方法 64
4.4.2 セキュリティ施錠金具の使用方法 64
4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意 65
4.5.1 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意 65
4.5.2 ハードディスクデータ消去 66
4.6 データのバックアップ（Easy Backup） 68

第5章　ソフトウェア

5.1 ソフトウェアの紹介 70
5.1.1 一覧表の見かた 70
5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア 71
5.1.3 サポート関連のソフトウェア 72
5.1.4 ユーティリティ 73
5.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア 75
5.1.6 メールソフト 75
5.1.7 Office製品 76
5.2 インストール 78
5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール 78
5.2.2 「ノートン アンチウイルス 2011」のインストール 80
5.2.3 「i-フィルター」のインストール 80
5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール 80
5.2.5 「Quality Gaaiho PDF Suite」のインストール 80
5.2.6 Office製品のインストール 80
5.3 アンインストール 81
5.3.1 注意事項 81
5.3.2 アンインストール方法 81

第6章　BIOS

6.1 BIOSセットアップ 83
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 84
6.2.1 BIOSセットアップを起動する 84
6.2.2 BIOSセットアップ画面 84
6.2.3 BIOSセットアップを終了する 85
6.2.4 起動メニューを使用する 86
6.3 メニュー詳細 87
6.3.1 情報メニュー 88
6.3.2 システムメニュー 88
6.3.3 詳細メニュー 89
6.3.4 セキュリティメニュー 91
6.3.5 起動メニュー 92
6.3.6 終了メニュー 92
6.4 設定事例集 93
6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う 93
6.4.2 起動デバイスを変更する 96
6.4.3 Wakeup on LANを有効にする 96
6.4.4 イベントログを確認する 97
6.4.5 ご購入時の設定に戻す 97

第7章　お手入れ

7.1 日常のお手入れ 99
7.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ 99
7.1.2 マウス（ボール式） 100
7.2 定期的なお手入れ 101
7.2.1 注意事項 101
7.2.2 パソコン本体外部のほこりを取る 102
7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る 103
7.2.4 お手入れナビ 107

第8章　トラブルシューティング

8.1 トラブル発生時の基本操作 109
8.1.1 状況を確認する 109
8.1.2 以前の状態に戻す 109
8.1.3 セーフモードで起動する 110
8.1.4 トラブルシューティングで調べる 110
8.1.5 Windowsのヘルプで調べる 110
8.1.6 インターネットで調べる 111
8.1.7 診断プログラムを使用する 111
8.1.8 サポートの窓口に相談する 113
8.2 よくあるトラブルと解決方法 114
8.2.1 トラブル一覧 114
8.2.2 起動・終了時のトラブル 116
8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル 119
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル 121
8.2.5 エラーメッセージ一覧 129
8.3 それでも解決できないときは 134
8.3.1 お問い合わせ先 134

第9章　仕様

9.1 本体仕様 137
9.1.1 D570/B 137
9.2 CPU 140
9.3 ディスプレイ 142
9.3.1 解像度 142
9.4 CD/DVDドライブ 143

廃棄・リサイクル 144

索引 145

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2011年7月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

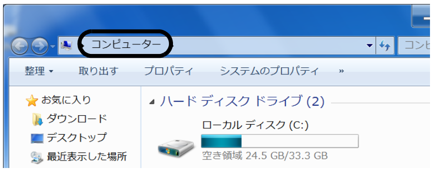
↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

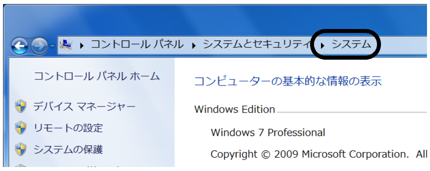
本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



↓

「コンピューター」ウィンドウ



↓

「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ご購入時の構成によっては、次のディスクは添付されていません。

- リカバリデータディスク
- トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク［リカバリ起動ディスク］
- InterVideo WinDVD® for FUJITSU

添付されていない場合は、ハードディスクに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。

あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>ESPRIMO D570/B</td><td>D570/B</td><td colspan="2">本パソコン／パソコン本体</td></tr>
<tr><td>Windows® 7 Enterprise 32ビット版</td><td>Windows 7 Enterprise
(32ビット版)</td><td rowspan="4">Windows 7</td><td rowspan="4">Windows</td></tr>
<tr><td>Windows® 7 Enterprise 64ビット版</td><td>Windows 7 Enterprise
(64ビット版)</td></tr>
<tr><td>Windows® 7 Professional 32ビット版</td><td>Windows 7 Professional
(32ビット版)</td></tr>
<tr><td>Windows® 7 Professional 64ビット版</td><td>Windows 7 Professional
(64ビット版)</td></tr>
<tr><td>Windows® Internet Explorer® 8</td><td colspan="3">Internet Explorer</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Professional 2010</td><td colspan="2">Office Professional 2010</td><td rowspan="3">Office 2010</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Home and Business 2010</td><td colspan="2">Office Home and Business 2010</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Personal 2010</td><td colspan="2">Office Personal 2010</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Professional 2007</td><td colspan="3">Office Professional 2007</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Personal 2007 with
Microsoft® Office PowerPoint® 2007</td><td colspan="3">Office Personal 2007 with PowerPoint 2007</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Personal 2007</td><td colspan="3">Office Personal 2007</td></tr>
<tr><td>Windows Media® Player 12</td><td colspan="3">Windows Media Player</td></tr>
<tr><td>Windows Live™ メール Version 2009</td><td colspan="3">Windows Live メール</td></tr>
<tr><td>Adobe® Reader®</td><td colspan="3">Adobe Reader</td></tr>
<tr><td>InterVideo WinDVD® for FUJITSU</td><td colspan="3">WinDVD</td></tr>
<tr><td>i-フィルター® 5.0</td><td colspan="3">i-フィルター</td></tr>
<tr><td>Roxio Creator LJ</td><td colspan="3">Roxio Creator</td></tr>
<tr><td>ノートン™ アンチウイルス 2011</td><td colspan="3">ノートン アンチウイルス 2011</td></tr>
</table>

Windowsの操作

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をクリックして表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。
また、多くのソフトウェアでは「ヘルプ」をクリックしたり【F1】キーを押したりすることでヘルプが表示されます。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の をクリックします。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Media、Access、Excel、OneNote、Outlook、PowerPoint、DirectXは、米国Microsoft Corporationおよび/またはその関連会社の商標です。

インテル、Intel、インテルCore、CeleronおよびIntel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenixは、米国Phoenix Technologies社の登録商標です。

Adobe、Readerは、合衆国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの商標または登録商標です。

Corel、Corelのロゴ、WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010-2011

1

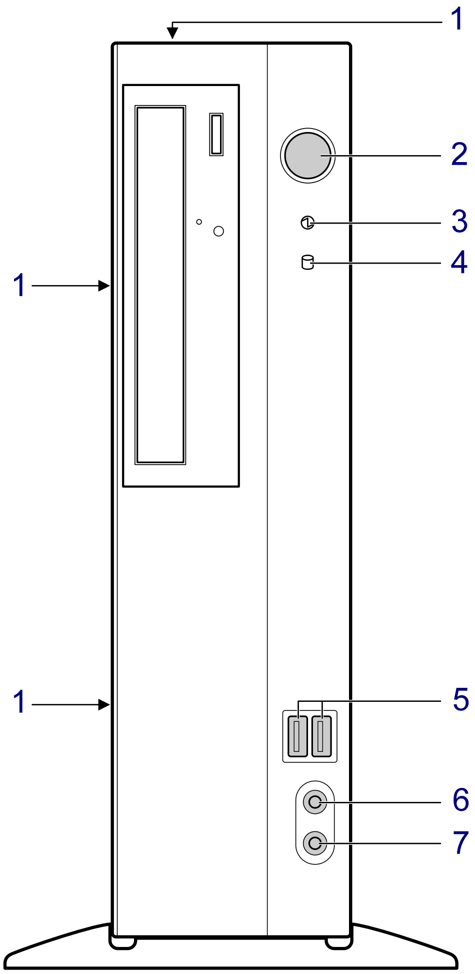
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1　パソコン本体前面 12
1.2　パソコン本体背面 14
1.3　パソコン本体内部 16
1.4　メインボード 18
1.5　キーボード 19

1.1 パソコン本体前面



1 吸気孔

冷却用の空気を取り込むための穴です。

2 電源ボタン

パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.30）にしたりします。

3 電源ランプ

本パソコンの電源が入っているときに緑色に点灯します。スリープ状態のときはオレンジ色に点灯します。

4 ディスクアクセスランプ

ハードディスクまたはCD/DVD ドライブ（CD/DVD ドライブ搭載機種）にアクセスしているときに点灯します。

5 USBコネクタ

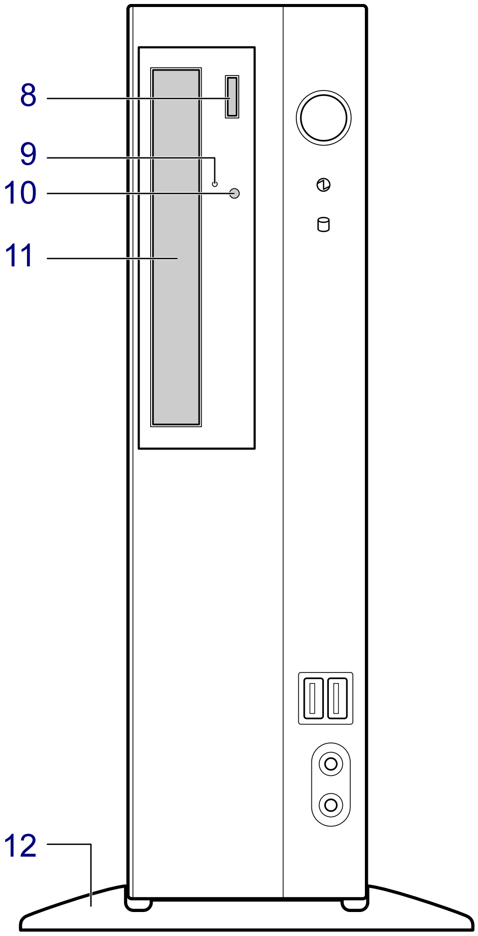
（→P.56）

6 マイク端子

（→P.57）

7 ヘッドホン端子

（→P.57）



8 CD/DVD取り出しボタン
（CD/DVDドライブ搭載機種）

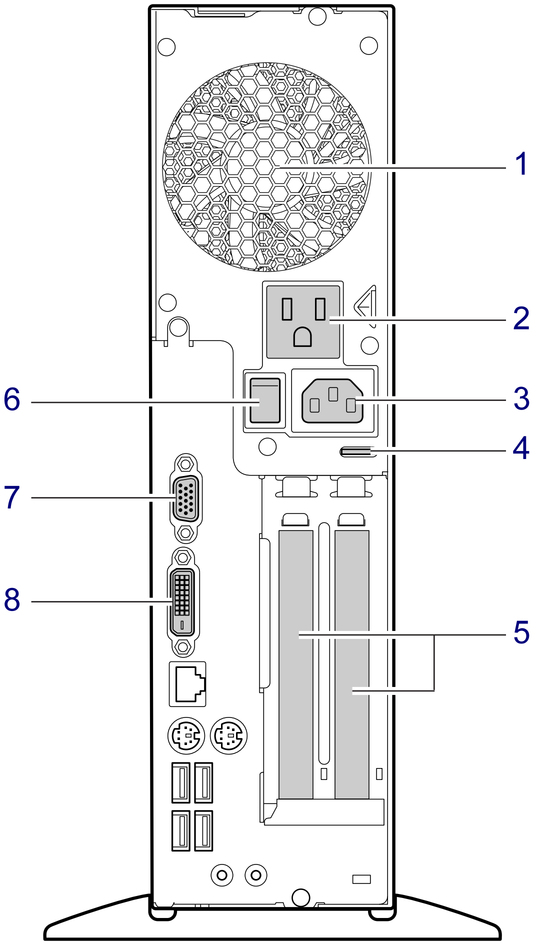
9 強制取り出し穴
CD/DVDドライブのトレーが開かなくなったとき、強制的にトレーを開きます。（→P.40）

10 CD/DVDアクセスランプ
（CD/DVDドライブ搭載機種）
CDやDVDにアクセスしているとき、またはCD/DVDドライブのトレー開閉時に点灯します。

11 CD/DVDドライブ
（CD/DVDドライブ搭載機種）（→P.35）
次のいずれかのドライブが搭載されています。
・DVD-ROMドライブ
・スーパーマルチドライブ

12 フット
本パソコンをお使いになるときに取り付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

1.2 パソコン本体背面



1 排気孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

2 アウトレット
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

3 インレット
本パソコンに添付の電源ケーブルを接続します。

4 セキュリティ施錠金具
（→P.64）

5 拡張カードスロット
（→P.51）

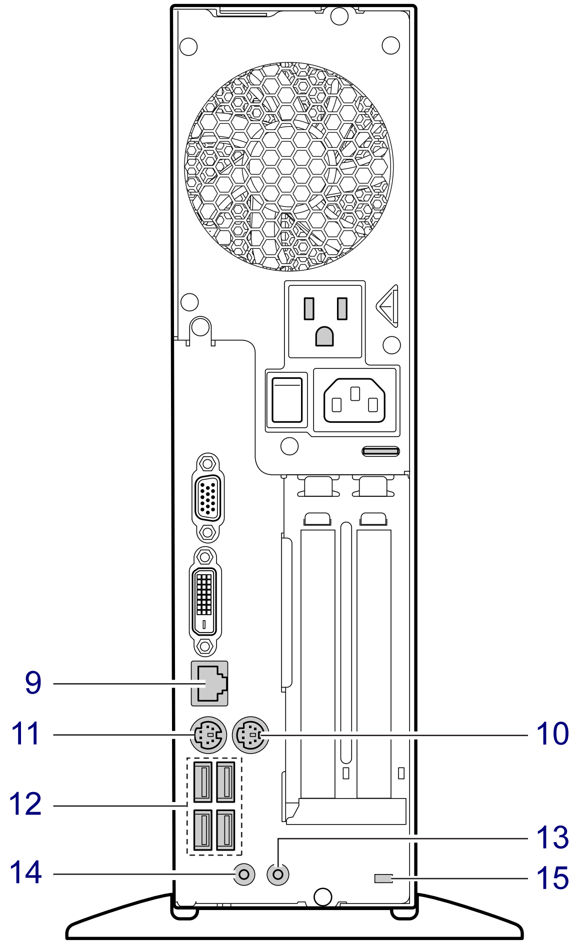
6 メインスイッチ
パソコン本体の電源を切り替えます。

スイッチの状態	
オン 「｜」側に切り替え	パソコンを使用する場合（通常）
オフ 「○」側に切り替え	・電源を完全に切る場合 ・長時間使用しない場合

「オフ」にすると、電源ボタンを押してもパソコン本体の電源は入りません。

7 アナログディスプレイコネクタ
（→P.55）

8 デジタルディスプレイコネクタ
（→P.55）



9 LANコネクタ
（→P.58）

LED

LEDの意味は、次のとおりです。

	上部LED（Speed）	下部LED（ACT/LNK）
1000MbpsでLINKを確立	オレンジ点灯	緑色点灯注
100MbpsでLINKを確立	緑色点灯	緑色点灯注
10MbpsでLINKを確立	消灯	緑色点灯注

注　：データ転送中は緑色点滅

10 マウスコネクタ

11 キーボードコネクタ

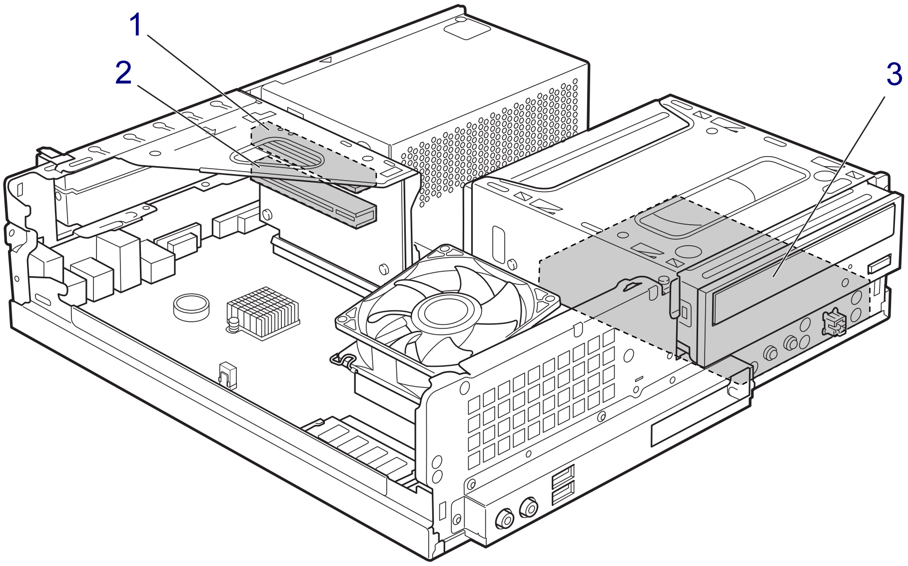
12 USBコネクタ
（→P.56）

13 ラインアウト端子
（→P.57）

14 ラインイン端子
（→P.57）

15 盗難防止用ロック取り付け穴
（→P.64）

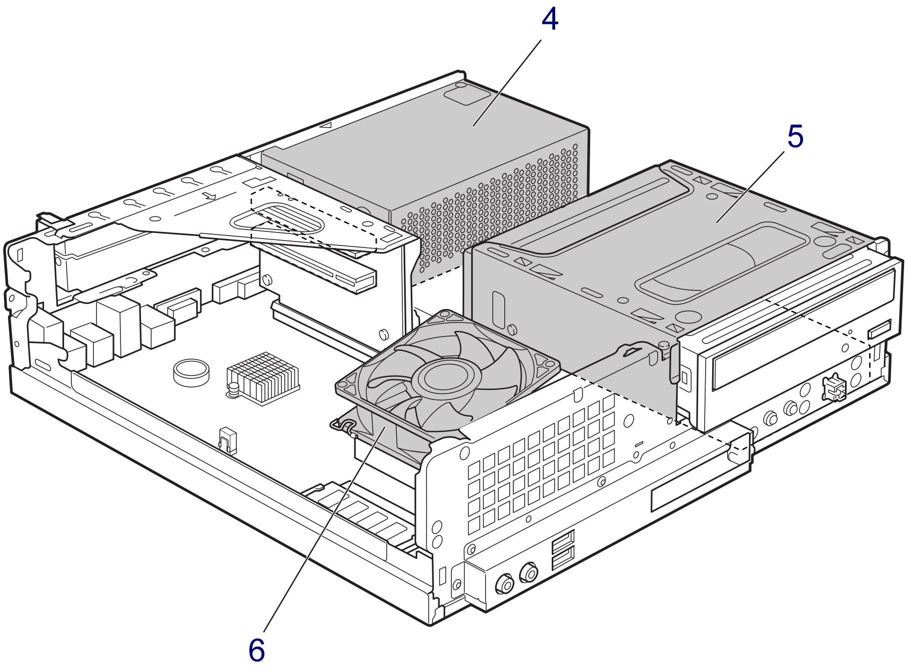
1.3 パソコン本体内部



1 PCIカードスロット（1）
（→P.51）

2 PCIカードスロット（2）
（→P.51）

3 内蔵ハードディスク
Serial ATA規格のハードディスクが取り付けられています。

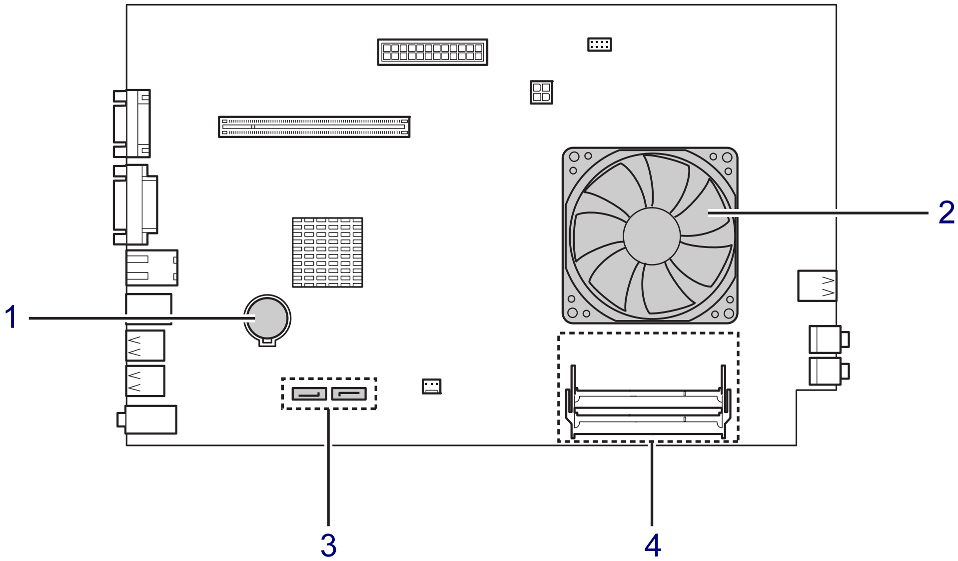


4 電源ユニット

5 ファイルラック

6 CPUファン

1.4 メインボード



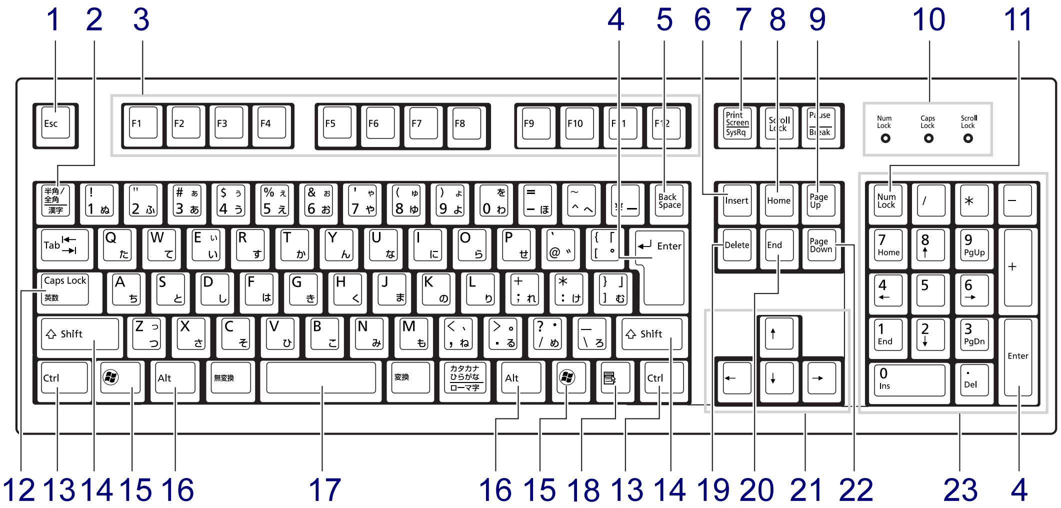
1 内蔵リチウム電池
本パソコンの時計機能とBIOSセットアップで設定した設定値を保存するためのバッテリです。

2 CPU／ヒートシンク
（CPUファンの下にあります）

3 シリアルATAコネクタ
- **シリアルATAコネクタ（HDD）**
  標準のハードディスクドライブが接続されています。
- **シリアルATAコネクタ（ODD）**
  CD/DVDドライブ搭載機種の場合、CD/DVDドライブが接続されています。

4 メモリスロット
メモリが取り付けられています。（→P.48）

1.5 キーボード



1【Esc】キー

2【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

3【F1】～【F12】キー

4【Enter】キー

5【Back Space】キー

6【Insert】キー

7【Print Screen】キー

8【Home】キー

9【Page Up】キー

10 インジケーター
Num Lock、Caps Lock、Scroll Lockの各機能のオン／オフを表示します。

11【Num Lock】キー
テンキーのモードを切り替えます。

12【Caps Lock英数】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

13【Ctrl】キー

14【Shift】キー

15【 】（Windows）キー
「スタート」メニューを表示します。

16【Alt】キー

17【Space】キー

18【 】（アプリケーション）キー
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスの右クリックと同じ役割をします。

19【Delete】キー

20【End】キー

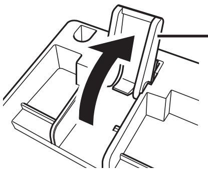
21 カーソルキー

22【Page Down】キー

23 テンキー
「Num Lock」インジケーター点灯時に数字が入力できます。
「Num Lock」インジケーター消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

■ キーボードの角度調節

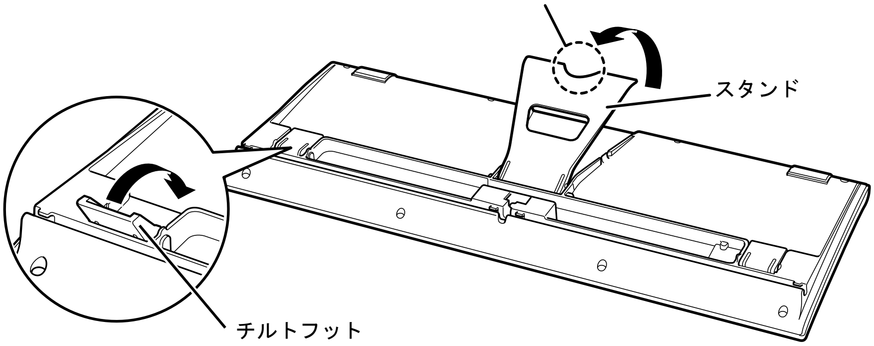
キーボードの底面には、チルトフットが2ヶ所付いています。
チルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



■ キーボードの立て方

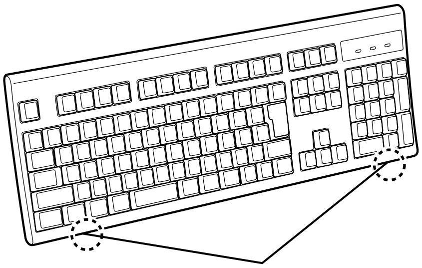
対 象　抗菌縦置キーボード選択時

キーボードを立てて、少ないスペースで収納することができます。
キーボードを立てる場合は、キーボード底面にある、スタンド中央のくぼみに手をかけて引き起こしてください。



□ 注意事項

- キーボード底面にあるチルトフットは、倒れている状態にしてください。
- キーボードを立てた状態で、前後に押したり引いたりしないでください。キーボード下部に付いているゴム足がはがれる場合があります。



2

第2章

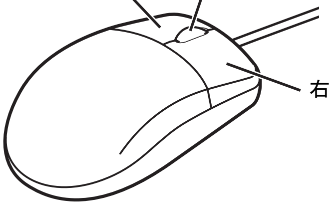
取り扱い

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1　マウス 22
2.2　ディスプレイ 23
2.3　マルチディスプレイ機能 25
2.4　サウンド 28
2.5　省電力機能 30
2.6　CD/DVD ドライブ 35
2.7　通信 43

2.1 マウス

ここでは、マウスについて説明しています。



2.1.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.1.2 マウスの基本設定を変更する

ご購入時は、マウスのボタンの機能は、右利き用に設定されています。左右のボタンの機能は、「マウスのプロパティ」で変更できます。
また、「マウスのプロパティ」では、マウスポインターやダブルクリック、スクロール速度なども変更できます。

1 **コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。**
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 **それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。**

2.2 ディスプレイ

ここでは、本パソコンに接続した1台のディスプレイを使う方法について説明しています。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→P.55）をご覧ください。
2つのディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.3 マルチディスプレイ機能」（→P.25）をご覧ください。

2.2.1　注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.2.2　解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1 **デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**
「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2 **ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。**

3 **「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。**
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」（→P.142）をご覧ください。

4 **「適用」をクリックします。**
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.2.3 拡大表示設定を変更する

ディスプレイのサイズより小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。

3 「スケーリング」を設定します。

・全画面のスケール

画面がディスプレイ全体に拡大されます。

・縦横比を保持

画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。

・ディスプレイスケーリングを保持

ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3 マルチディスプレイ機能

本パソコンに2台目のディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ここでは2つのディスプレイを使ったマルチディスプレイ機能について説明しています。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→P.55）をご覧ください。

2.3.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、2つのディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示	1つのディスプレイの画面をもう1つのディスプレイに拡張し、1つの画面として表示します。Windowsのタスクバーは1つのディスプレイにのみ表示され、このディスプレイをプライマリディスプレイと呼び、もう1つのディスプレイをセカンダリディスプレイと呼びます。それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示	2つのディスプレイに同一の画面を表示します。両方のディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示	2つのディスプレイのどちらか一方に画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

【Win】＋【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

2.3.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- クローン表示では、著作権保護されたDVD-Videoは再生できません。
- 拡張デスクトップ表示の場合、「WinDVD」の画面を2つのディスプレイの間で移動すると、一時的に再生が止まることがあります。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、DVD-Videoなどの動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.3.3　拡張デスクトップ表示に設定する

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。

3 「動作モード」から「拡張デスクトップ」を選択します。
このとき、「主ディスプレイ」にはプライマリディスプレイにするディスプレイを設定してください。

4 「位置調整」に表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。
「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。

5 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、それぞれのディスプレイの「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」（→P.142）をご覧ください。

重要

- 色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。

6 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3.4　クローン表示に設定する

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。

3 「動作モード」から「クローンディスプレイ」を選択します。

4 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、それぞれのディスプレイの「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」（→P.142）をご覧ください。

重要

- 解像度と色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。

5 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3.5　シングル表示に設定する

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。

3 「動作モード」から「シングルディスプレイ」を選択します。
このとき、「主ディスプレイ」で画面を表示するディスプレイを選択してください。

4 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」（→P.142）をご覧ください。

5 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4 サウンド

ここでは、音量の調節方法について説明しています。
ヘッドホン端子、マイク端子、ラインアウト端子、ラインイン端子に機器を接続する方法については、「3.5.4 音声入出力端子」（→P.57）をご覧ください。

2.4.1 全体の再生音量を調節する

本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は次の操作で調節します。

1. 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン をクリックします。
2. 音量を調節します。

2.4.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1. 音量を調節するソフトウェアを起動します。
2. 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
3. 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.4.3　機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.29）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.29）をご覧ください。

1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.5.4 音声入出力端子」（→P.57）

2 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。

3 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

4 「レベル」タブをクリックします。

5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	マイク	マイク端子から入力される音の再生音量
	ライン入力	ラインイン端子から入力される音の再生音量

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク端子から入力される音の録音音量
	マイクブースト	マイクブーストのレベル
ライン入力	ライン入力	ラインイン端子から入力される音の録音音量

2.5 省電力機能

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明しています。
本パソコンの消費電力については、「9.1 本体仕様」（→P.137）をご覧ください。

2.5.1 省電力の状態について

本パソコンの省電力の状態は次のとおりです。

■ スリープ状態

Windowsの省電力状態の1つで、Windowsの状態をメモリに保存し、Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。
この状態では、メモリに保存したWindowsの状態などを維持するために、少しずつ電力を消費します。

POINT

- ハイブリッドスリープが有効になっていると、スリープ状態になったときに同時にWindowsの状態をハードディスクに保存します。そのため、停電になったり電源プラグがコンセントから抜けたりした場合などにも、元の状態にレジュームできます。

■ 休止状態

Windowsの省電力状態の1つで、Windowsの状態をハードディスクに保存し、Windowsの動作を一時的に中断させて電源を切った状態です。
ハイブリッドスリープが有効になっていると休止状態は使用できません。ハイブリッドスリープの設定を変更するには、「■ ハイブリッドスリープの設定を変更する」（→P.34）をご覧ください。

2.5.2 省電力状態にする

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。

■ 省電力状態にする

省電力状態にするには次の方法があります。動作はご購入時の設定です。

操作／条件	動作
「スタート」メニューから選択する	選択した動作になります。
電源ボタンを押す注	Windowsが終了し、電源が切れます。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.33）
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.33）

注 ：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。

2.5.3 省電力状態からレジュームする

■ 注意事項

- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本パソコンは再度スリープ状態になります。

■ レジュームする

省電力状態からレジュームするには次の方法があります。動作はご購入時の設定です。

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
キーボードやマウスを操作する注1	レジュームします。
Wakeup on LAN（WoL）機能注2	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.33）

注1：休止状態からはレジュームしません。
注2：本パソコンの有線LANや、PME#信号をサポートしたPCI拡張LANカードで利用できます。

2.5.4　電源を切る

ここでは、Windowsを終了させて本パソコンの電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず30秒以上たってから電源を入れるようにしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、電源を切った後パソコン本体背面のメインスイッチ（→P.14）を「○」側に切り替えるか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、Windowsを終了させて本パソコンの電源を切ります。

□「スタート」メニューから操作する

1. 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
2. しばらくするとWindowsが終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

POINT

- 「スタート」ボタン→ シャットダウン の ▷ →「再起動」の順にクリックすると、本パソコンを再起動できます。

□ 電源ボタンを押す

1 電源ボタン（→P.12）を押します。

2 ご購入時の設定では、しばらくするとWindowsが終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

重要

- 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。

POINT

- 電源ボタンを押したときの動作を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.33）をご覧ください。

2.5.5　省電力の設定を変更する

■ 電源プランを切り替える

電源設定は電源プランごとに設定されています。お使いになる状況に応じて電源プランを切り替えることができます。

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「電源オプション」

2 お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をクリックし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

4 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

5 「OK」をクリックします。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンにアクセスすることで、WoL機能により本パソコンを省電力状態からレジュームさせるようにするには、次の手順で設定します。
電源オフ状態からWoL機能により本パソコンの電源を入れる方法については、「6.4.3 Wakeup on LANを有効にする」（→P.96）をご覧ください。

1 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。

2 コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」

3 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。

4 次のデバイスをダブルクリックします。
Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet

5 「電源の管理」タブをクリックします。

6 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。

・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

7 「OK」をクリックします。

■ ハイブリッドスリープの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

4 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。

5 設定を変更し、「OK」をクリックします。

2.6 CD/DVD ドライブ

対象　CD/DVD ドライブ搭載機種

ここでは、CD/DVD ドライブとCDやDVDなどのディスクの取り扱いについて説明しています。
ディスクの取り扱いについては、お使いのディスクのマニュアルをご覧ください。
また、CD/DVD ドライブの仕様については、「9.4 CD/DVD ドライブ」（→P.143）をご覧ください。

2.6.1 注意事項

- CD/DVDアクセスランプ（→P.13）が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因となりますので絶対に使わないでください。

2.6.2　使用できるディスク

■ 注意事項

- 直径8cmまたは直径12cm、厚さ1.14mm～1.5mmの円形のディスクのみ使用できます。それ以外のディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- ゆがんだディスク、重心の偏ったディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないディスクは、使用できない場合があります。
- パソコン本体を縦置きにしている場合、直径8cmのディスクは使用できません。

■ 使用できるディスク

お使いのCD/DVDドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ			DVD-ROMドライブ		
	読込	書込	書換	読込	書込	書換
CD-ROM	○	×	×	○	×	×
音楽CD	○	×	×	○	×	×
ビデオCD	○	×	×	○	×	×
CD-R	○	○	×	○	×	×
CD-RW 注1	○	○	○	○	×	×
DVD-ROM	○	×	×	○	×	×
DVD-Video	○	×	×	○	×	×
DVD-R（4.7GB）	○	○	×	○	×	×
DVD-R DL（8.5GB）注2	○	○	×	○	×	×
DVD-RW	○	○	○	○	×	×
DVD+R（4.7GB）	○	○	×	○	×	×
DVD+R DL（8.5GB）	○	○	×	○	×	×
DVD+RW（4.7GB）	○	○	○	○	×	×
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）注3	○	○	○	○	×	×
DVD-RAM2 注3 注4	○	○	○	×	×	×

注1 ：Ultra Speed CD-RWディスクは使用できません。
注2 ：追記はできません。また追記されたディスクの読み込みは保証しません。
注3 ：・カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。
　　　・2.6GBおよび5.2GBのディスクは使用できません。
注4 ：スーパーマルチドライブ搭載時に使用できます。5倍速までの従来規格のDVD-RAMと異なり、6、8、12倍速に対応したDVD-RAMです。

■ 推奨ディスク

対象　スーパーマルチドライブ搭載機種

スーパーマルチドライブで書き込みや書き換えを行う場合は、次のディスクの使用をお勧めします。それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

ディスク種別	メーカー	型名
CD-R	太陽誘電（That's）	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	Verbatim（バーベイタム）	SW80EU5V1、SW80EM5V1、 SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1
DVD-R	太陽誘電（That's）	DR-47WTY50BNT、DR-47WKY10SN、 DR-47WPY30AA
	Verbatim（バーベイタム）	DHR47J10V1
DVD-R DL	Verbatim（バーベイタム）	DHR85HP5V1
DVD-RW	Verbatim（バーベイタム）	DHW47RP1V1、DHW47Y10V1
DVD+R	太陽誘電（That's）	DR+47WTY10PN
DVD+R DL	Verbatim（バーベイタム）	DTR85HP5V1
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無）
		LM-HB47MA （4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）
		LM-HB94M （9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5S A（4.7GB、カートリッジ無）
DVD-RAM2	日立マクセル	DRM47D.1P（4.7GB、カートリッジ無）

2.6.3　ディスクをセットする

1 CD/DVD取り出しボタン（→P.13）を押してトレーを開きます。

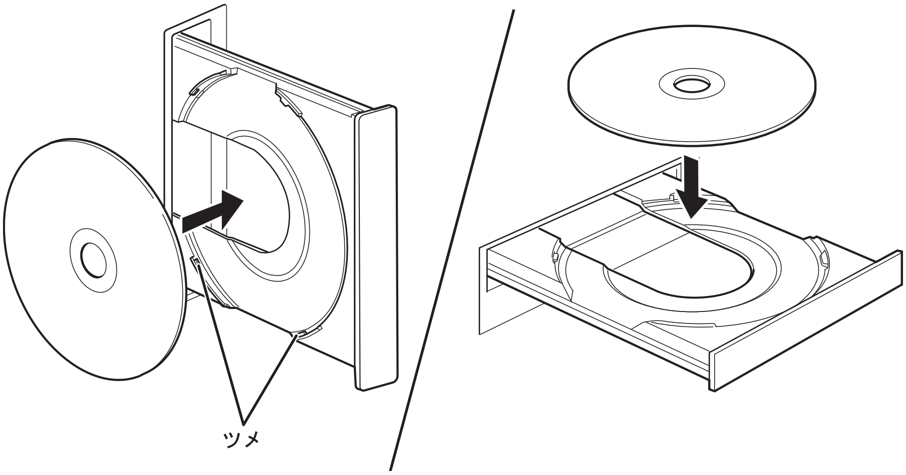
2 ディスクをトレーに載せます。

●パソコン本体を縦置きにしている場合

ディスクのレーベル面を左にして、下側のツメ（2ヶ所）に引っかかるようにトレーに載せます。

●パソコン本体を横置きにしている場合

ディスクのレーベル面を上にして、トレーの中央に載せます。



3 CD/DVD取り出しボタン（→P.13）を押してトレーを閉じます。

重要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

POINT

- ディスクをセットしてから使用可能になるまで、少し時間がかかります。CD/DVDアクセスランプ（→P.13）が消えてからディスクの操作を行ってください。

2.6.4　ディスクを取り出す

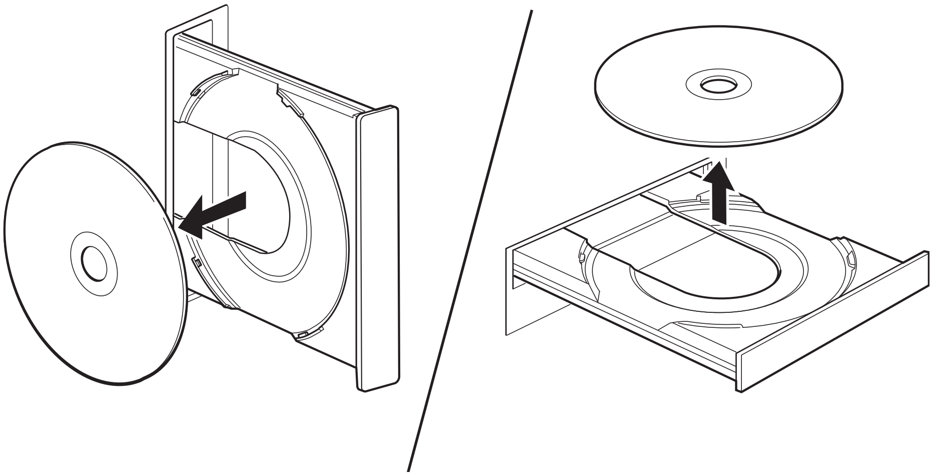
ソフトウェアがディスクを使用していないときは、CD/DVD取り出しボタンを押してディスクを取り出します。

CD/DVD取り出しボタンを押してトレーを開く前に、次のことを確認してください。

- CD/DVDアクセスランプ（→P.13）が点灯していないこと。
  CD/DVDアクセスランプが消灯するまで待ってください。
- ソフトウェアがディスクを使用していないこと。
  ソフトウェアの機能を使ってトレーを開くか、ソフトウェアを終了してください。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ディスク上のファイルを開いていないこと。
  ファイルを閉じてください。

上記の項目を確認してもトレーが開かない場合は、本パソコンを再起動してください。本パソコンを再起動してもトレーが開かない場合は、「■　トレーを強制的に開く」（→P.40）をご覧ください。

1. CD/DVD取り出しボタン（→P.13）を押してトレーを開きます。
2. ディスクを取り出します。



3. CD/DVD取り出しボタン（→P.13）を押してトレーを閉じます。

重要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

■ トレーを強制的に開く

「2.6.4 ディスクを取り出す」（→P.39）の手順でトレーが開かない場合は、次の手順でトレーを開きます。

重要

- どうしてもトレーが開かない場合にのみ実行してください。

1. パソコン本体の電源を切ります。
2. 強制取り出し穴（→P.13）に、太めのペーパークリップを伸ばしたものなどを、トレーが少し出てくるまで押し込みます。
3. トレーを静かに引き出します。

2.6.5　ディスクに書き込む

対象　スーパーマルチドライブ搭載機種

記録可能ディスクに書き込むには「Roxio Creator」（→P.75）を使用します。詳しくは、次の手順で「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio Creator LJ」→「Roxio Creator LJ」の順にクリックします。
2. 「ヘルプ」メニューをクリックし、必要な項目をクリックします。

POINT

- DVD-RAMはフォーマットすることにより、USBメモリのように直接Windowsエクスプローラーなどで書き込むことができます。DVD-RAMをフォーマットするには「■ DVD-RAMをフォーマットする」（→P.41）をご覧ください。

■ 注意事項

- 本パソコンで作成したディスクは、ディスクの種類や書き込み形式などにより他の機器では使用できない場合があります。お使いの機器で使用できるディスクの種類や書き込み形式などについては、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。また、ディスクの記録状態によっても使用できない場合があります。
- ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD取り出しボタンを押したりしないでください。また、省電力状態にもしないでください。
- ディスクへの書き込みには高い処理能力が必要です。ディスクに書き込み中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。

- 自動再生が有効に設定されていると、ディスクへの書き込みができない場合があります。その場合は次の手順で自動再生を無効に設定してください。
  1. コントロールパネルの「自動再生」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「自動再生」
  2. 「すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う」のチェックを外し、「OK」をクリックします。
- 「Roxio Creator」は、パケットライトによる書き込みには対応していません。
- ポータブルスーパーマルチドライブユニットをお使いになる場合も、ポータブルスーパーマルチドライブユニットに添付されている「Roxio Creator」ではなく、本パソコンの「Roxio Creator」をお使いください。
- DVD+R DLにデータを書き込む場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」（約512MB）が書き込まれます。このため、書き込み可能な最大容量は約7.99GBとなります。

■ DVD-RAMをフォーマットする

DVD-RAMを初めてお使いになる場合や、すべてのデータを消去する場合は次の手順でDVD-RAMをフォーマットします。

POINT

▶ 両面タイプのDVD-RAMディスクは片面ごとにフォーマットします。

1 フォーマットするDVD-RAMをセットします（→P.38）。

2 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックし、「コンピューター」を表示します。

3 CD/DVD ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。

4 必要に応じて「ファイルシステム」などを設定します。

5 「開始」をクリックし、以降は表示されるメッセージに従います。

2.6.6　DVD-Videoを再生する

DVD-Videoは「WinDVD」（→P.75）で再生します。詳しくは、次の手順で「WinDVD」のヘルプをご覧ください。

1　「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「InterVideo WinDVD」→「InterVideo WinDVD for FUJITSU」の順にクリックします。

2　右上の「？」アイコンをクリックします。

■ 注意事項

- すべてのDVD-Videoの再生を保証するものではありません。
- DVD-Videoの再生には高い処理能力が必要です。DVD-Videoの再生中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。
- 著作権保護されたDVD-Videoは、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応していないデジタルディスプレイでは再生できません。
- 著作権保護されたDVD-Videoは、クローン表示（→P.25）に設定している場合は再生できません。
- CPRM対応のディスクは再生できません。
- 音声トラックがMPEGオーディオフォーマットのDVD-Videoの音声は、「WinDVD」では再生できません。「Windows Media Player」で再生してください。
- 「WinDVD」ではビデオCDは再生できません。「Windows Media Player」で再生してください。
- ディスクによっては、専用の再生ソフトウェアが添付されているものがあります。ディスクに添付されている再生ソフトウェアをインストールした場合、そのソフトウェアによる再生および「WinDVD」での再生は保証しません。
- リージョンコードについて
  - ・リージョンコードが、CD/DVD ドライブのリージョンコードを含んでいるか、「ALL」のDVD-Videoのみ再生できます。DVD-Videoのリージョンコードは、ディスクまたはパッケージに記載されています。ご購入時のCD/DVDドライブのリージョンコードは「2」です。
  - ・前回再生したDVD-Videoとリージョンコードが異なるDVD-Videoを再生しようとすると、リージョンコードの変更を確認する画面が表示されます。この画面で「OK」をクリックすると、CD/DVD ドライブのリージョンコードが変更されます。
  - ・CD/DVD ドライブのリージョンコードはご購入後4回まで変更できます。それ以降は最後に設定したリージョンコードに固定され、リカバリを行っても元には戻りません。

2.7 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.137）をご覧ください。

2.7.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.5.5 LANコネクタ」（→P.58）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- Link速度を100/10Mbpsに固定して接続する場合、オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
  ・Linkランプが点灯しない
  ・通信できない
  ・通信速度が異常に遅い

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1　周辺機器を取り付ける前に 45
3.2　本体カバー 46
3.3　メモリ 48
3.5　コネクタの接続／取り外し 55

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
  やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 本体カバー

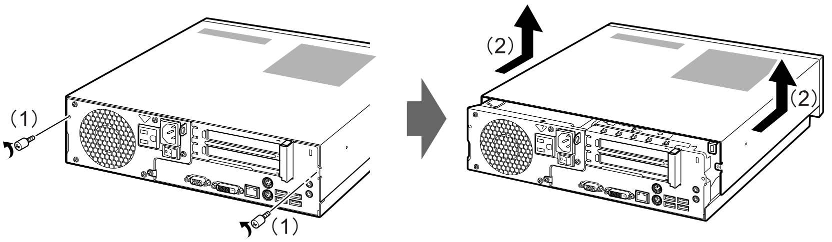
パソコン本体内部に周辺機器を取り付けたり取り外したりする場合には、本体カバーを取り外す必要があります。ここでは本体カバーの取り付け／取り外し方法について説明しています。
必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.45）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- 本体カバーを取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えて電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 作業はパソコン本体が滑らないような平らな台の上で行ってください。

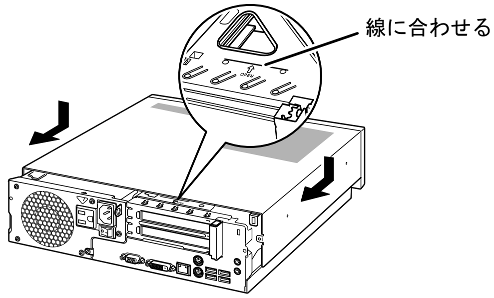
3.2.2 本体カバーを取り外す

1. パソコン本体および接続されている周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
2. フット（→P.13）を取り付けている場合は、フットを取り外します。
3. パソコン本体を横置きにします。
4. （1）パソコン本体背面のネジ（2ヶ所）を外し、（2）本体カバーをパソコン本体前面側にスライドさせてから上に持ち上げて取り外します。
お使いの機種により、本体カバーの取り外しが固く感じる場合があります。



3.2.3　本体カバーを取り付ける

1　線に合わせて本体カバーをまっすぐに下ろし、本体背面側にスライドさせます。



2　ネジ（2ヶ所）で固定します。

3.3 メモリ

ここでは、本パソコンにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.45）をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1　注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えて電源プラグをコンセントから抜いてください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。

3.3.2　取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。

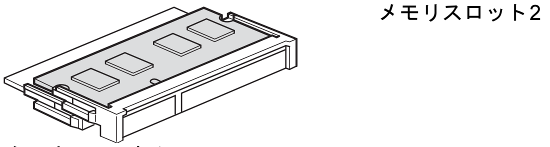
メモリスロット1	メモリスロット2	総容量	Windows 7（64ビット版）	Windows 7（32ビット版）
1GB	－	1GB	－	○
1GB	1GB	2GB	○	○
2GB	2GB	4GB	○	○注
4GB	4GB	8GB	○	－

注 ：OSが使用可能な領域は約3GBになります。

3.3.3　メモリを取り付ける

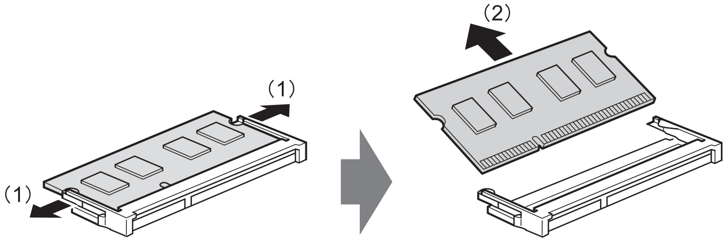
1 本体カバーを取り外します（→P.46）。

2 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。



●メモリスロットにメモリが取り付けられている場合

(1) メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除し、(2) メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



重要

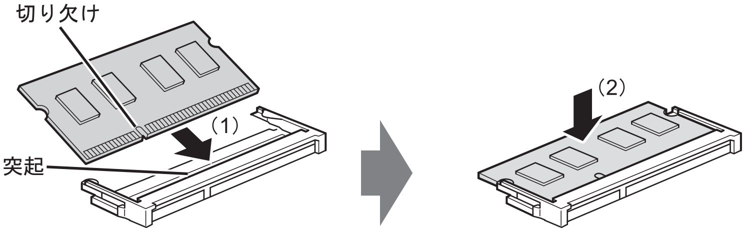
- メモリスロット1のメモリを取り外すときは、メモリスロット2のメモリを取り外してから、メモリスロット1のメモリを取り外してください。

●メモリスロットにメモリが取り付けられていない場合

次の手順に進みます。

3 メモリを取り付けます。

(1) メモリの欠けている部分とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込み、(2) メモリスロット両側のフックが閉じてメモリを固定するまで、下に倒します。フックがメモリを固定していることを確認してください。



重要

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

4 本体カバーを取り付けます（→P.47）。

5 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.84）をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本パソコンが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.3.4　メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重要

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

3.4 拡張カード

本パソコンに拡張カードを取り付けると、本パソコンの機能を拡張できます。ここでは拡張カードの取り付け、取り外しについて説明しています。
取り付ける拡張カードのマニュアルもあわせてご覧ください。また、拡張カードスロットの空き数や仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.137）をご覧ください。
必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.45）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- 拡張カードを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、メインスイッチを○側に切り替えて電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 拡張カードは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。拡張カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 拡張カードに起動ROM（BIOS）が搭載されている場合、起動デバイスの優先順位が変わるため、本パソコンが起動できなくなることがあります。この場合は、拡張カードの起動ROMを無効にすることにより現象を回避できることがあります。拡張カードの起動ROMを無効にする方法については、お使いの拡張カードのマニュアルをご覧ください。
- 増設したPCI拡張LANカードから起動可能にするには、「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.96）をご覧になり、増設したPCI拡張LANカード（表示されていない場合は「Network Card」）を「除外された起動デバイス」から「起動デバイスリスト」に移動させてください。
  起動時にデバイスを選択する方法については、「6.2.4 起動メニューを使用する」（→P.86）をご覧ください。
- 拡張カードを取り付けない拡張カードスロットには、必ずスロットカバーを取り付けてお使いください。

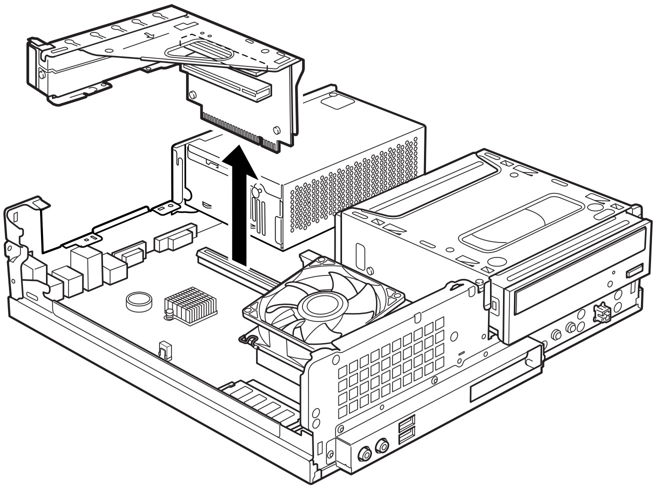
3.4.2　拡張カードを取り付ける

1 本体カバーを取り外します（→P.46）。

2 拡張カード取り付け金具を真上にまっすぐ引き抜きます。

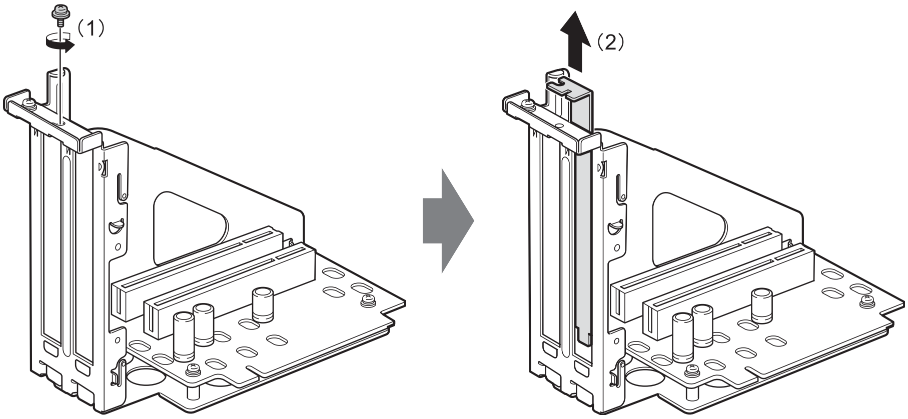
重要

- ケーブルが接続された拡張カードが取り付けられている場合は、接続されているケーブルとケーブルの接続されているコネクタの対応をメモしてからケーブルを抜き、その後拡張カード取り付け金具を抜いてください。



3 拡張カードスロットを確認します（→P.16）。

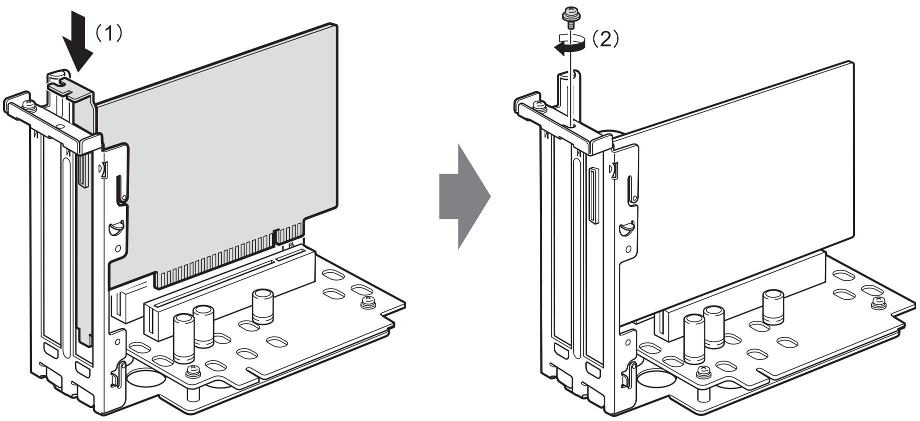
4 （1）スロットカバーを固定しているネジを外し、（2）スロットカバーを取り外します。



重要

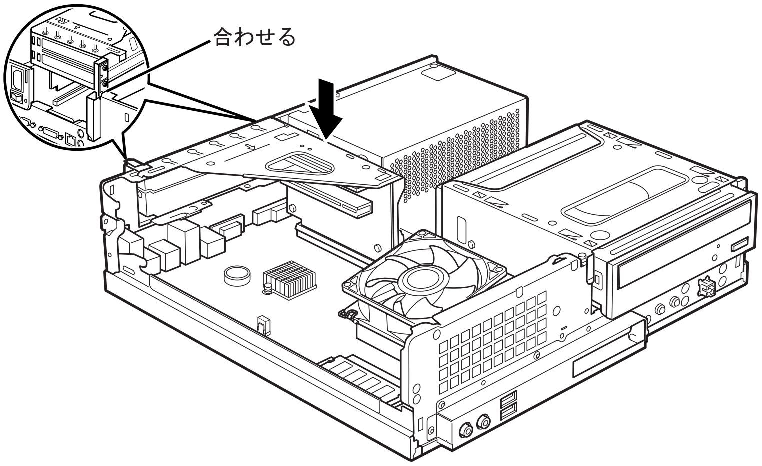
- 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

5 （1）拡張カードを真上から奥まで押し込み、（2）ネジを締めて固定します。



6 拡張カード取り付け金具をパソコン本体に取り付けます。

拡張カード取り付け金具とパソコン本体の突起部分を合わせ、真上から奥まで差し込みます。



7 手順3でケーブルを抜いた場合は、同じコネクタに接続し直します。

8 本体カバーを取り付けます（→P.47）。

重要

- 拡張カードが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり画面に何も表示されなかったりすることがあります。
  その場合は電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、拡張カードを取り付け直してください。それでも拡張カードが正常に機能しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.4.3　拡張カードを取り外す

拡張カードを取り外す場合は、「3.4.2 拡張カードを取り付ける」（→P.52）をご覧になり、「スロットカバー」と「拡張カード」を読み替えて作業してください。

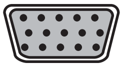
3.5 コネクタの接続／取り外し

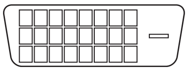
ここでは、パソコン本体のコネクタに、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.137）をご覧ください。
必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.45）をお読みになってから作業をしてください。

3.5.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.5.2 ディスプレイコネクタ


アナログRGBミニD-SUB15ピン


DVI-D24ピン

ディスプレイを接続します。必ずパソコン本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

□アナログディスプレイコネクタ

1. パソコン本体の電源を切ります。
2. アナログディスプレイコネクタ（→P.14）に、アナログディスプレイのケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。
3. ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

□デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）

1 パソコン本体の電源を切ります。

2 デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）（→P.14）に、デジタルディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。

3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■取り外す

重要

- マルチディスプレイ機能（→P.25）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□アナログディスプレイコネクタ

1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

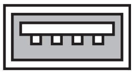
2 コネクタのネジを緩め、コネクタをまっすぐに引き抜きます。

□デジタルディスプレイコネクタ（DVI）

1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2 コネクタのネジを緩め、コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.3　USBコネクタ



USB機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■接続する

1 USBコネクタ（→P.12）（→P.15）に、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。

1. 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.4　音声入出力端子

マイク、スピーカーなどのサウンド機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- マイク端子やラインイン端子にサウンド機器を接続したり取り外したりするときは、サウンド機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

■ 接続する

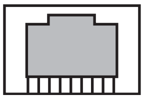
1 マイク端子（→P.12）、ヘッドホン端子（→P.12）、ラインイン端子（→P.15）、またはラインアウト端子（→P.15）に、サウンド機器のケーブルを接続します。

まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.5　LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

1 **LANコネクタ（→P.15）にネットワーク機器のケーブルを接続します。**

コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

POINT

- パソコン本体の電源を入れたままLANケーブルを接続した場合、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

■ 取り外す

1 **コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。**

4

第4章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

4.1　コンピューターウイルス 60
4.2　Windowsやソフトウェアを最新の状態にする 61
4.3　不正使用からのセキュリティ 62
4.4　パソコンの盗難防止 64
4.5　パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意 65
4.6　データのバックアップ（Easy Backup） 68

4.1 コンピューターウイルス

4.1.1 コンピューターウイルス対策

■ ノートン アンチウイルス 2011

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「ノートン アンチウイルス 2011」が添付されています。

□ 注意事項

- 「ノートン アンチウイルス 2011」を起動していると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。ご注意ください。

□ インストール方法

「5.2.2 「ノートン アンチウイルス 2011」のインストール」（→P.80）をご覧ください。

□ ウイルス定義ファイルの更新（LiveUpdate）

「ノートン アンチウイルス 2011」のウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。ウイルス定義ファイルは、自動的に更新する方法と、手動で更新する方法があります。詳しくは「ノートン アンチウイルス 2011」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。
ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする

Windowsやソフトウェアの脆弱性が悪用されると、コンピューターウイルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。
Windowsやソフトウェアの修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

4.2.1 Windows Update

マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windowsを最新の状態に更新します。脆弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）

弊社が提供するサポート機能です。お使いのコンピューターのドライバーや添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているか調査し、適用することができます。スタートメニューの「UpdateAdvisor（本体装置）」から起動できます。

4.3 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用からパソコンを守るため、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

重要

- コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

4.3.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけがパソコンを起動できます。
また、コンピューターのハードディスク自体にパスワードを設定できます。
詳しくは、「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.93）をご覧ください。

4.3.2 セキュリティチップ

対象　セキュリティチップ搭載機種 注

セキュリティチップは、Windowsログオンのパスワードやファイルを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。
セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

注　Windows 7（64ビット版）は対象外です。

4.3.3 Portshutter

USBポートやCD/DVDドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。USB機器ごとに接続ポートの有効・無効を設定できます。
詳しくは、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

4.3.4　エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

対象　エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能対応のCPUが搭載されている機種

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファー・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。
詳しくは、「9.2 CPU」（→P.140）をご覧ください。

4.4 パソコンの盗難防止

パソコン本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失によりデータを盗まれるなどの危険から保護します。

4.4.1 パソコン本体の施錠方法

パソコン本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。
盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「1 章　各部名称」（→ P.11）をご覧ください。

POINT

- 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

4.4.2 セキュリティ施錠金具の使用方法

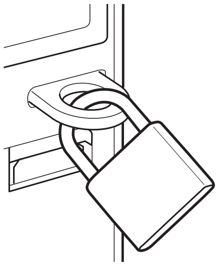
対象　セキュリティ施錠金具対応機種

1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。
本体カバーの取り扱い方は、「3.2 本体カバー」（→ P.46）をご覧ください。

POINT

- セキュリティ施錠金具の穴径は、ϕ8mm です。

2 セキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。
セキュリティ施錠金具の位置は、「1.2 パソコン本体背面」（→ P.14）をご覧ください。



（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

- 市販の鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、パソコンを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

4.5.1 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
① データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤ リカバリディスクを使い、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

4.5.2　ハードディスクデータ消去

本パソコンには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。
「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- パソコン本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクのリカバリ領域も消去されます。必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を起動してから、72時間経過すると、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- CD/DVDドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブルCD/DVDドライブを接続してください。
  ポータブルCD/DVDドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を用意してください。

1　**「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」をセットします。**

2　**本パソコンを再起動します。**

3　**「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。**
起動メニューが表示されます。

POINT

- BIOSセットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後、認証画面が消えた後、すぐに【F12】キーを押してください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

4 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、CD/DVD ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

5 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

6 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

7 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を取り出します。

8 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

4.6 データのバックアップ（Easy Backup）

本パソコンには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup」が添付されています。必要に応じてお使いください。

「Easy Backup」のインストール方法については、「5.2 インストール」（→P.78）をご覧ください。

5

第5章

ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

5.1　ソフトウェアの紹介 70
5.2　インストール 78
5.3　アンインストール 81

5.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本パソコンにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」などに格納されています。
また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。
各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
  「5.2 インストール」（→P.78）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
  インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- OSについて
  お使いのパソコンに該当するOSの欄をご覧ください。
  ・Win7(64)：Windows 7（64ビット版）
  ・Win7(32)：Windows 7（32ビット版）
  ・Vista：Windows Vista
- 提供形態について
  ▼：ご購入時にインストール済み
  ◇：Cドライブに格納（ご購入時にはインストールされていません）
  ○：「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納
  ☆：各ソフトウェアのディスクに格納
  －：搭載されていないか、対象となる機種がありません
  「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

5.1.2　セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、自動的に表示できない主旨のメッセージ画面が表示されます。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇	◇
Portshutter	USBポートやCD/DVDドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	−	○	○
SMARTACCESS/ Basic	対象 **セキュリティチップ搭載機種** セキュリティチップを使用するためのソフトウェアです。	−	○	○
ノートン アンチウイルス 2011	コンピューターウイルスを検出・駆除します。 詳しくは、「4.1.1 コンピューターウイルス対策」（→P.60）をご覧ください。 ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になれます。 詳しくは、「8.3.1 お問い合わせ先」（→P.134）をご覧ください。	◇	◇	◇
ハードディスク データ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「4.5.2 ハードディスクデータ消去」（→P.66）をご覧ください。	○	○	○

5.1.3　サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
PC乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	○	○	○
UpdateAdvisor（本体装置）	お使いのパソコンのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのパソコンの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	▼	▼	▼
サポートナビ	本パソコンを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。 デスクトップの「サポートナビ」アイコンから起動できます。	▼	▼	▼

5.1.4　ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。	▼	▼	▼
CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU	あらゆるデータソースを元に、対話形式でレポートを簡単にデザインできます。作成したレポートをWebアプリケーションに埋め込むことができます。レポート上で並べ替えやフィルタリングも可能です。 ・インストール後30日間ご試用いただけます。 ・無償サポート期間と無償アップデート期間は30日間（試用期間）です。	○	○	○
Easy Backup	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	○	○	○
Googleツールバー	「Internet Explorer」のツールバーにある検索キーワード入力欄から、検索サービスサイト「Google」にアクセスして検索できます。 検索キーワードを入力するときに関連語句のヒントが表示されたり、検索履歴を簡単に見ることができるなどの便利な機能も含まれます。	▼	▼	▼
IndicatorUtility	対象 Kシリーズ 「明るさ調整ボタン」で画面の明るさを操作した場合に、デスクトップ上にインジケーターを表示します。	—	▼	▼
Quality Gaaiho PDF Suite	PDFファイルの作成や編集を行う「Gaaiho Doc」とMicrosoft® Office製品や、印刷機能のあるソフトウェアからの出力データをPDFファイルにする「Gaaiho PDF」からなるPDF作成、編集、変換ツールです。 ・試用開始時にはインターネットへの接続とユーザー登録が必要です。 ・無償サポート期間と無償アップデート期間は30日間です。	◇	◇	◇

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
Systemwalker Desktop Patrol Lite	パソコンの使用状況（電力量、電力料金、CO_2排出量）の概算を計算したり、省電力設定やセキュリティ設定を確認したりすることができます。例えばスリープに移行するまでの時間設定が非常に長いなど、あらかじめ決められた設定と異なった場合には、そのことを利用者に通知し、設定を変更することもできます。 省電力設定については、「国際エネルギースタープログラム」のエネルギースター適合基準を基に、モニターの電源を切る時間、およびスリープに移行する時間を設定します。	○	○	○
T-SATA2R Manager	対象 **HDD変更（SATA-RAID）を選択した機種** Windows上でディスクアレイの状態監視やメンテナンスなどを行うためのRAID管理ユーティリティです。 詳しくは、『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。	－	▼	▼
お手入れナビ	対象 **24時間モデル** パソコンの使用時間や温度を基準に、パソコンのお手入れ時期がきたことをお知らせします。 メッセージが表示されたときは、指示に従ってお手入れをしてください。お手入れ方法については、「7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る」（→P.103）をご覧ください。	▼	▼	▼
富士通拡張機能ユーティリティ	本パソコンのハードウェア拡張機能をサポートします。	▼	▼	▼
富士通モニタユーティリティ	「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイを接続し、プライマリモニターに設定した場合に使用できます。ソフトウェアごとに画質モードを登録し、そのソフトウェアを起動すると自動的に登録された画質モードに切り替えたり、ディスプレイのボタンを使わずに画質や表示サイズなどを設定したりすることができます。 「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイについては、ディスプレイに添付のマニュアルまたは富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にあるディスプレイの製品情報をご覧ください。	○	○	○

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
ゆったり設定2	パソコンをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	○	○	○
らくらくズーム	パソコンの画面上の文字が小さくて見にくいときに、画面の一部分を拡大して見やすく表示します。拡大中も、通常どおりパソコンを操作できます。	－	－	○

5.1.5　CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
Roxio Creator	対 象 **スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種** パソコンのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法については、「2.6.5 ディスクに書き込む」（→P.40）およびソフトウェアのヘルプをご覧ください。	▼	▼	▼
WinDVD	対 象 **DVD-ROM ドライブ（ユニット）搭載機種、スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種** 映画や音楽などのDVDを再生できます。 使用方法については、「2.6.6 DVD-Videoを再生する」（→P.42）をご覧ください。	☆	☆	☆

5.1.6　メールソフト

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。	▼	▼	－

5.1.7　Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時はインストールされていますが、リカバリを実行した場合にはインストールされません。添付のディスクからインストールしてください。
Office 2010をお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要	Win7 (64)	Win7 (32)	Vista
Microsoft® Office Professional 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	－	▼	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算			
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理			
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション			
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート			
	Microsoft® Access® 2010	データベース			
	Microsoft® Publisher 2010	ビジネスパブリッシング			
Microsoft® Office Home and Business 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	－	▼	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算			
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理			
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション			
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート			
Microsoft® Office Personal 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	－	▼	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算			
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理			
Microsoft® Office Professional 2007	Microsoft® Office Word 2007	ワープロ	－	▼	▼
	Microsoft® Office Excel® 2007	表計算			
	Microsoft® Office Outlook® 2007	情報管理			
	Microsoft® Office PowerPoint® 2007	プレゼンテーション			
	Microsoft® Office Access® 2007	データベース			
	Microsoft® Office Publisher 2007	ビジネスパブリッシング			

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.70）をご覧ください。

<table>
<tr><th>名称</th><th>含まれるソフトウェア</th><th>概要</th><th>Win7 (64)</th><th>Win7 (32)</th><th>Vista</th></tr>
<tr><td rowspan="4">Microsoft® Office Personal 2007 with PowerPoint</td><td>Microsoft® Office Word 2007</td><td>ワープロ</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">▼</td><td rowspan="4">▼</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Excel® 2007</td><td>表計算</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Outlook® 2007</td><td>情報管理</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office PowerPoint® 2007</td><td>プレゼンテーション</td></tr>
<tr><td rowspan="3">Microsoft® Office Personal 2007</td><td>Microsoft® Office Word 2007</td><td>ワープロ</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">▼</td><td rowspan="3">▼</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Excel® 2007</td><td>表計算</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Office Outlook® 2007</td><td>情報管理</td></tr>
</table>

5.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアルやソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

重要

- 誤ったドライバーをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンしてからインストールしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

・トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
・「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスク

重要

- これらのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本パソコンに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
  2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「ソフトウェア」から、インストールするソフトウェアを選択します。

「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

5 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールしてください。

次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

●Adobe Reader

「AdbeRdr933_ja_JP.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

POINT

- インストール中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

●Portshutter

「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

●Roxio Creator

「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

●WinDVD

表示されたフォルダー内の「DVDreadme.txt」をご覧ください。

●CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

表示されたフォルダー内の「Crystal Reports 2008 for Fujitsu インストールガイド.pdf」をご覧ください。インストールに必要な試用版のライセンスキーは、同じフォルダーにある「Crystal Reports 2008 30-Day Evaluation.txt」をご覧ください。

5.2.2 「ノートン アンチウイルス 2011」のインストール

C ドライブに格納されています。

1. 次のファイルを実行し、表示されるメッセージに従ってインストールします。
   C:¥Fujitsu¥Bundle¥NAV¥Fujitsu_Ltd_NAV_18.0_OEM90_21034435.exe
2. インストールが完了したら本パソコンを再起動します。

5.2.3 「i-フィルター」のインストール

C ドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。
C:¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥readme.txt

5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

5.2.5 「Quality Gaaiho PDF Suite」のインストール

C ドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。
C:¥Fujitsu¥Bundle¥GaaihoPDF¥GaaihoWorksReadme.txt
インストール後は、次のファイルをご覧になりお使いください。
C:¥Fujitsu¥Bundle¥GaaihoPDF¥Gaaiho Worksデモ版ご利用開始方法.pdf

5.2.6 Office製品のインストール

次のソフトウェアのインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- Office Professional 2010
- Office Home and Business 2010
- Office Personal 2010
- Office Professional 2007（SP2）
- Office Personal 2007 with PowerPoint 2007（SP2）
- Office Personal 2007（SP2）

インストール後は「Microsoft Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください。

5.3 アンインストール

5.3.1 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
  ・セキュリティチップ
- Windows 7で「WinDVD」をアンインストールする場合、インストール時に使ったディスクをセットしてからアンインストールを行ってください。

6

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1　BIOSセットアップ 83
6.2　BIOSセットアップの操作のしかた 84
6.3　メニュー詳細 87
6.4　設定事例集 93

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本パソコンご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・Wakeup on LANの設定を変更するとき
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 本パソコンの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。

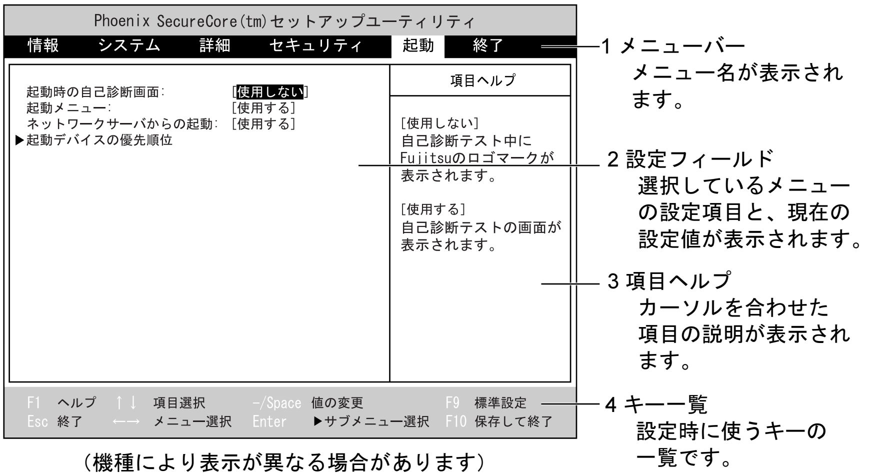
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください。詳しくは、「■ パスワードを使用する」（→P.94）をご覧ください。
BIOSセットアップ画面が表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。
- FUJITSUロゴが表示されない場合は、再起動後、BIOSセットアップ画面が表示されるまで【F2】キーを何度か押してください。
- 手順2で【F2】キーを押さずに【Enter】キーを押すと、ポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューからBIOSセットアップを起動することもできます。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



（機種により表示が異なる場合があります）

6.2.3　BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。

2 「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動、またはパソコンの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。

2 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

6.2.4 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本パソコンを起動します。「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」から本パソコンを起動する場合などに使用します。

1 本パソコンの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください。詳しくは、「■ パスワードを使用する」（→P.94）をご覧ください。
起動メニューが表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。
- FUJITSUロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。
- 手順2で【F12】キーを押さずに【Enter】キーを押すと、ポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューから起動メニューを表示することもできます。
- BIOSセットアップの「起動」メニュー→「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。

3 起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。

選択したデバイスから本パソコンが起動します。

POINT

- CD/DVDドライブから起動する場合、CD/DVDドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
  CD/DVDドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、CD/DVDドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

6.3 メニュー詳細

ここでは、BIOSセットアップのメニューについて説明しています。
BIOSセットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー		説明
情報	（→P.88）	BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。
システム	（→P.88）	日時や言語、ドライブの機能などを設定します。
詳細	（→P.89）	CPUや内蔵デバイス、周辺機器などを設定します。
セキュリティ	（→P.91）	パスワード等のセキュリティ機能を設定します。
起動	（→P.92）	本パソコンの起動時の動作について設定します。
終了	（→P.92）	設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

重要

- BIOSセットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

POINT

- 一部の項目は、該当機能を搭載した機種でのみ表示されます。
  また一部の項目は、他の項目の設定によって表示されなかったり設定変更不可（グレー表示）になったりします。
  詳しくは各項目の備考欄をご覧ください。
- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動すると、設定値がグレー表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

6.3.1　情報メニュー

BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

設定項目		備考
型名		
カスタムメイド番号		
製造番号		
BIOS版数		
CPUタイプ		
L2キャッシュ		
全メモリ容量		1MB=1024^2バイト換算
	メモリスロット1	1MB=1024^2バイト換算
	メモリスロット2	1MB=1024^2バイト換算
MACアドレス		
UUID		

6.3.2　システムメニュー

□選択肢　■初期値

設定項目		備考
システム時刻 □00：00：00～23：59：59		【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】＋【Tab】キー……左の項目に移動
システム日付 □1981/01/01～2099/12/31		【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】＋【Tab】キー……左の項目に移動
ドライブ0		「標準設定値を読み込む」実行後は再起動が必要
	ドライブ0 □使用しない ■使用する	
	タイプ	
	モデル	
	容量	1GB=1000^3バイト換算
ドライブ1		「標準設定値を読み込む」実行後は再起動が必要
	ドライブ1 □使用しない ■使用する	
	タイプ	
	モデル	
言語（Language） ■日本語（JP）　□English（US）		CMOSエラー発生時は「English（US）」に設定される

6.3.3　詳細メニュー

□選択肢　■初期値

設定項目		備考
キーボード設定		
	起動時のNumlock設定 ■オン　□オフ	
	キーボードエラーの検出 □使用しない　■使用する	
その他の内蔵デバイス設定		
	シリアルATAコントローラー □使用しない ■使用する	
	AHCI設定 □使用しない ■使用する	「シリアルATAコントローラー」が「使用する」時のみ設定変更可能
	内蔵LANデバイス □使用しない ■使用する	搭載機種のみ表示
CPU設定		
	マルチコア □使用しない ■使用する	
	HTテクノロジー □使用しない ■使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
	SpeedStep(R)テクノロジー □使用しない ■使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
	Virtualization Technology ■使用しない　□使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
USB設定		
	レガシー USBサポート □使用しない ■使用する	「使用しない」時はFDDユニット（USB）からの起動不可
	SCSIサブクラスサポート □使用しない ■使用する	「レガシーUSBサポート」が「使用する」時のみ設定変更可能 注1

□選択肢　■初期値

設定項目		備考
各種設定		
	電源ボタン □使用しない　■電源オフ	ACPI対応OSでは無効
	AC通電再開時の動作 ■電源オフ　□電源オン □自動　□使用しない	注2注3 ・自動……電源断発生時の状態による。 起動中、スリープは「電源オン」 シャットダウン、休止状態は「電源オフ」
	LANによるウェイクアップ ■使用しない　□使用する	
	強制LANブート ■使用しない　□使用する	「LANによるウェイクアップ」が「使用する」時のみ設定変更可能
	時刻による電源オン ■使用しない　□使用する	
	時刻 □00:00:00～23:59:59	「時刻による電源オン」が「使用する」時のみ設定変更可能
	日時（日） □0～31	「時刻による電源オン」が「使用する」時のみ設定変更可能
	ハードウェア省電力機能 □使用しない　■使用する	
イベントログ設定		
	イベントログ領域の状態	
	イベントログ内容の状態	
	イベントログの表示 ＞Enter	
	イベントログ □保存しない　■保存する	
	システム起動 ■保存しない　□保存する	「イベントログ」が「保存する」時のみ表示
	イベントログの消去 ■消去しない　□消去する	
	イベントログのマーク ＞Enter	現在までのイベントログを既読に設定し、以降表示されないようにする

注1：接続されているデバイスによっては、「使用する」に設定すると本パソコンが起動しなくなる場合があります。その場合は、デバイスを取り外して再起動してください。

注2：UPSなどを使って通電再開時に電源を投入させたい場合は、「電源オン」に設定してください。

注3：「使用しない」に設定した場合、停電などのAC電源切断が発生すると、次に本製品の電源を入れるまで、LANによるウェイクアップは使用できなくなります。

6.3.4　セキュリティメニュー

□選択肢　■初期値

設定項目		備考
管理者用パスワード		設定状況を表示
ユーザー用パスワード		設定状況を表示
管理者用パスワード設定 ＞Enter		「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.93)
ユーザー用パスワード設定 ＞Enter		「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.93)
ユーザー用パスワード文字数 □0～32		
起動時のパスワード ■使用しない　□最初のみ □毎回		
自動ウェイクアップ時 ■使用しない □使用する		・LAN／タイマー等による自動ウェイクアップ時のパスワード要求有無を設定。 ・「起動時のパスワード」が「最初のみ」または「毎回」時に設定可能
取外し可能なディスクからの起動 ■常に可能　□管理者のみ		
BIOSフラッシュメモリへの書き込み □禁止　■可能		
ハードディスクセキュリティ		・電源投入直後にBIOSセットアップを起動した場合のみ設定可能。再起動後は設定不可。
	ドライブ0用パスワード	設定状況を表示
	ドライブ0用パスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.93)
	起動時のパスワード入力 □使用しない ■使用する	設定に関わらず再起動時は要求なし

6.3.5　起動メニュー

□選択肢　■初期値

設定項目	備考
起動時の自己診断画面 ■使用しない　□使用する	「使用しない」設定時は「FUJITSU」ロゴを表示
起動メニュー □使用しない　■使用する	【F12】キーによる起動メニュー呼び出しの設定
ネットワークサーバーからの起動 □使用しない　■使用する	
起動デバイスの優先順位	
起動デバイスリスト □Floppy Disk Drive □Drive0 HDD □CD/DVD Drive □NETWORK 除外された起動デバイス □Network Card □USB MEMORY □USB HDD	「起動デバイスリスト」の登録順に起動イメージを検索 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.96）

6.3.6　終了メニュー

項目を選んで【Enter】キーを押すと、確認画面が表示されます。

設定項目	備考
変更を保存して終了する	
変更を保存せずに終了する	注1
標準設定値を読み込む	次の項目は対象外 ・言語設定 ・BIOSパスワード ・ハードディスクパスワード
変更前の値を読み込む	
変更を保存する	
変更を保存して電源を切る	

注1：確認画面で「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。「いいえ」を選択してください。

6.4 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況に合わせてご覧ください。

・BIOSのパスワード機能を使う（→P.93）
・起動デバイスを変更する（→P.96）
・Wakeup on LANを有効にする（→P.96）
・イベントログを確認する（→P.97）
・ご購入時の設定に戻す（→P.97）

6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本パソコンを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- 「管理者用パスワード」またはハードディスクパスワードを変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」やハードディスクパスワードを設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。
- 「暗号化機能付HDD」は、全データを自動的に暗号化、復号化していますが、ハードディスクパスワードを設定していない場合はハードディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本パソコンの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.84）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

・「管理者用パスワード設定」
・「ユーザー用パスワード設定」

●ハードディスクパスワードを設定する場合

・「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
・「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4　新しいパスワード（1～32桁）を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移ります。

POINT

- BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。また、大文字と小文字は区別されます。
- 入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

5　手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6　変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」（→P.85）

■ パスワードを使用する

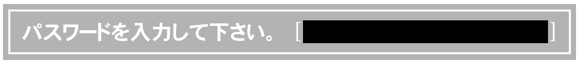
設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」と表示されて警告音が鳴り、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
  - ・BIOSセットアップを起動するとき
  - ・本パソコンを起動するとき
  - ・休止状態からレジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。



- ハードディスクパスワード
  ・本パソコンを起動するとき
  次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

POINT

▶ ハードディスク用マスターパスワードでは、本パソコンを起動することはできません。

■ パスワードを忘れてしまったら

重要

▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
  管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
  ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
  マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

6.4.2 起動デバイスを変更する

本パソコンの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「起動デバイスリスト」の登録順にOSを検索します。
「除外された起動デバイス」に登録されたデバイスは検索の対象外となります。

1 「起動」メニューを選択します。

2 「起動デバイスの優先順位」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 【↑】【↓】キーで優先順位を変更したいデバイスを選択します。

4 【Space】キー、【－】キー、および【x】キーを使用して、優先順位を変更します。

【Space】キー	選択したデバイスを1つ上に移動します。
【－】キー	選択したデバイスを1つ下に移動します。
【x】キー	「起動デバイスリスト」と「除外された起動デバイス」の間を移動します。

5 「起動デバイスリスト」が希望する順番になるまで、手順3～4を繰り返します。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」（→P.85）

6.4.3 Wakeup on LANを有効にする

本パソコンの電源が切れているときにマジックパケットを受信した場合に、電源を入れるように設定します。LANによる省電力状態からのレジュームについては、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.33）をご覧ください。

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「各種設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」（→P.85）

6.4.4　イベントログを確認する

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「メッセージが表示された」（→P.116）をご覧ください。

6.4.5　ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューを選択します。

2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

- 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
  - ・日時の設定
  - ・言語設定
  - ・BIOSパスワード
  - ・ハードディスクパスワード
  - ・所有者情報

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」（→P.85）

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1　日常のお手入れ 99
7.2　定期的なお手入れ 101

7.1 日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

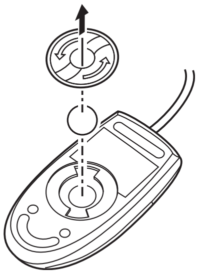
7.1.2 マウス（ボール式）

対象 マウス（ボール式）の場合

マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールやマウスの内部の汚れを取ってください。

1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウスの底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。



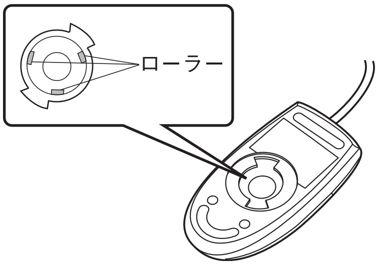
（イラストは一般的なマウスを表しており、
お使いのマウスとは細部が異なる場合があります）

2 ボールを取り出して、水洗いします。

ボールを水洗いした後は、充分に乾燥させてください。

3 マウスの内部の汚れを取ります。

マウスの内部と裏ブタを、水に浸して固く絞った布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボールと裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分に乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

7.2 定期的なお手入れ

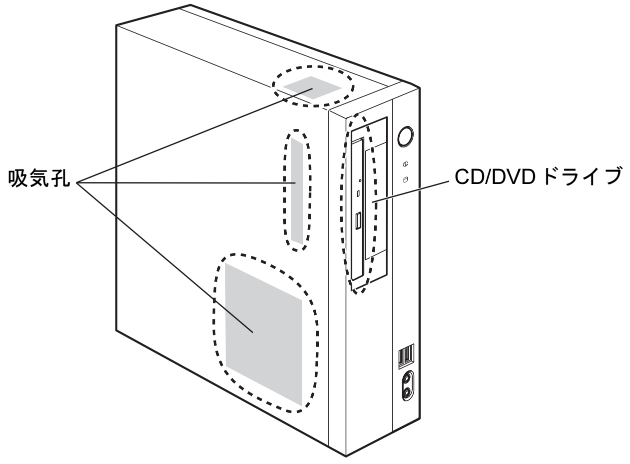
長期間パソコンを使用していると、通風孔やパソコン内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。
また、24時間モデルの場合は、本パソコンにインストールされているソフトウェア「お手入れナビ」で、お手入れの時期をお知らせするメッセージを表示することができます。

7.2.1 注意事項

- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。
- パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
パソコン本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。

7.2.2　パソコン本体外部のほこりを取る

パソコン本体の吸気孔や排気孔、CD/DVD ドライブなどの開孔部にほこりがたまると、故障の原因となります。
吸気孔などに付着したほこりは、掃除機で吸い取ってください。



7.2.3　パソコン本体内部のほこりを取る

パソコン本体内部や吸気孔などにほこりがたまった状態で使い続けると、パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。
パソコン本体内部や吸気孔のほこりは、掃除機で吸い取ってください。

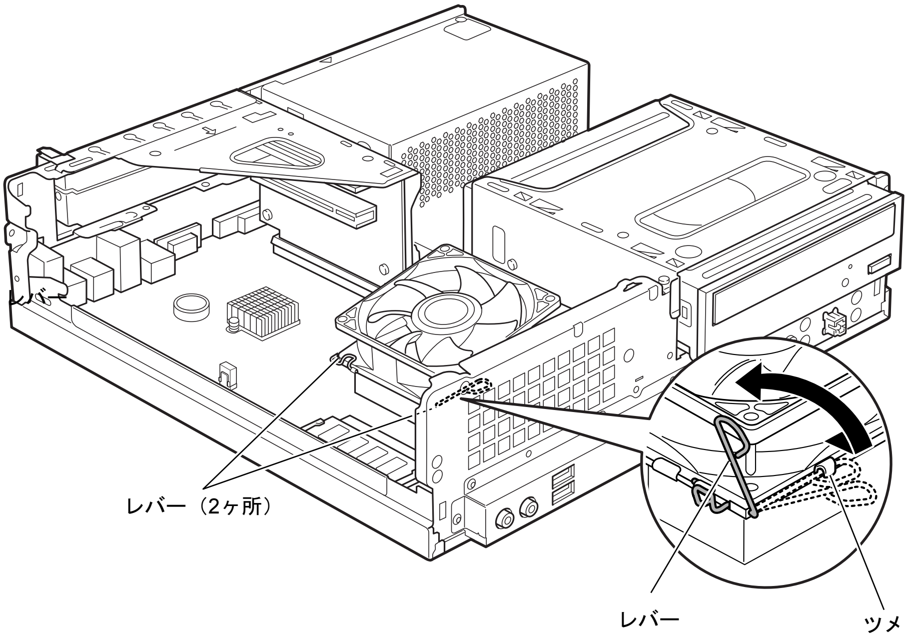
重要

- パソコン本体内部の突起物には、手を触れないでください。けがや故障の原因となります。

1 本体カバーを取り外します（→P.46）。

2 レバーを操作してCPUファンを外し、CPUファンの外枠のフレームを持って、CPUファンをヒートシンクから取り外します。

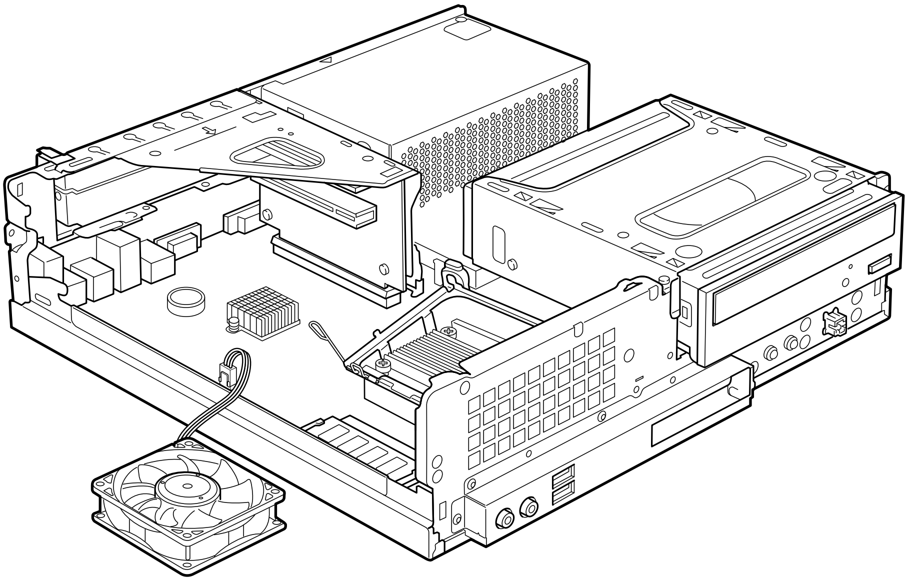
CPUファンを持つときは、CPUファンの羽根に触れないようにしてください。



CPUファンの両側のレバー（2ヶ所）を下に押してツメから外し、上に持ち上げます。

3 取り外したCPUファンを、パソコン本体の横に置きます。

CPUファンのケーブルがコネクタから抜けないように注意してください。強く引っ張るとケーブルが抜ける場合があります。

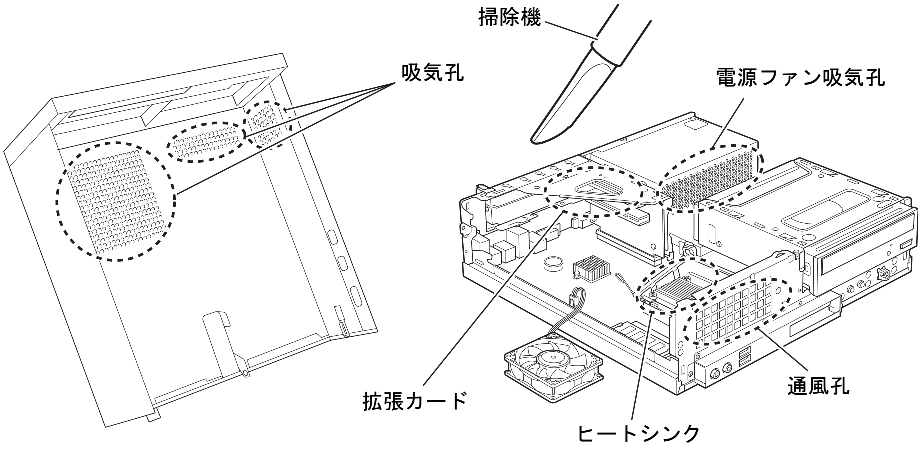


4 パソコン内部のほこりを、掃除機で吸い取ります。

イラスト点線部はほこりのたまりやすい場所です。

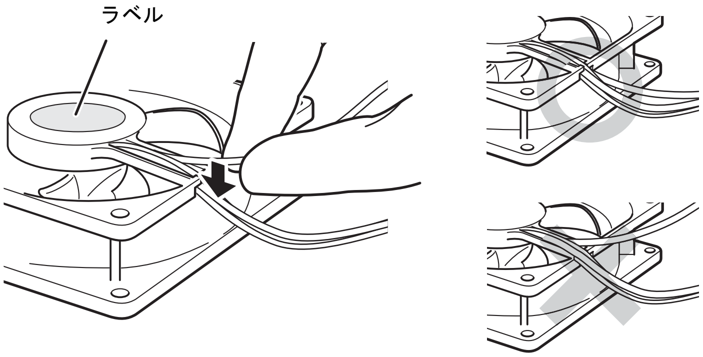
重要

- ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒やつまようじを使用してほこりを取ったりしないでください。ヒートシンクが変形する場合があります。
- イラストで示している場所以外には触れないようにご注意ください。故障の原因となります。



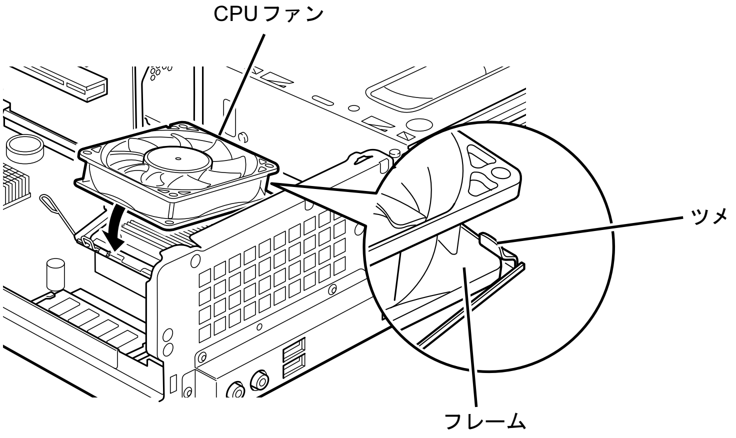
5 **CPUファン中央にあるラベル面を上側に向け、CPUファンのケーブルが切り欠け部分から外れていないことを確認します。**

少しでも外れている場合は、外れているケーブルを切り欠けの中に入れてください。



6 **CPUファンを、ヒートシンクの上に置きます。**

ラベル面を下側に向け、ヒートシンクのツメ（2ヶ所）にCPUファンのフレームを差し込んでから、CPUファンが固定されるまでしっかりと下ろしてください。

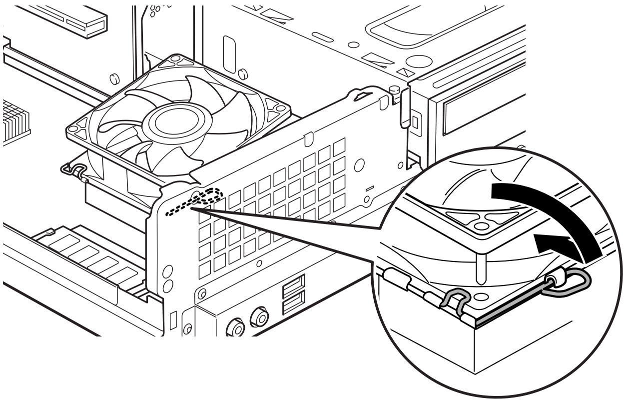


重要

- CPUファンを置くときに、ケーブルをはさまないように気をつけてください。

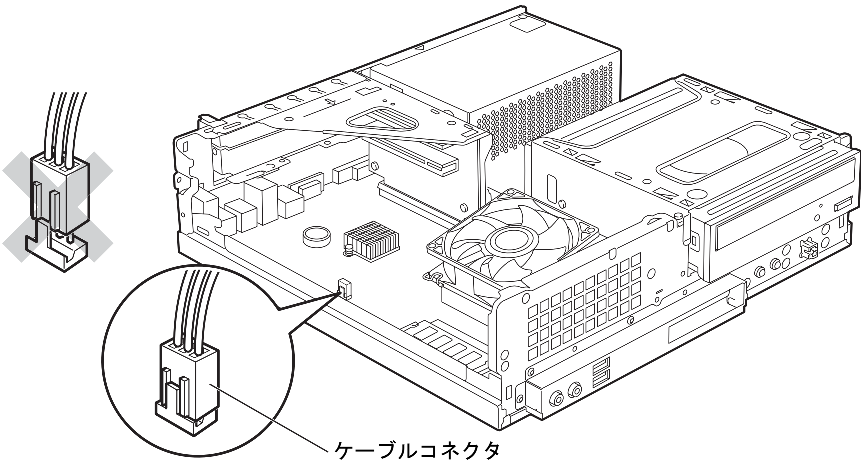
7 CPUファンを固定します。

レバー（2ヶ所）を下に倒してCPUファンを固定し、レバーをツメにかけます。



8 CPUファンのケーブルコネクタがきちんと接続されていることを確認します。

少しでも外れていた場合は、きちんと接続してください。



9 本体カバーを取り付けます（→P.47）。

7.2.4　お手入れナビ

対象　24時間モデル

■ お手入れナビとは

パソコン本体内部や吸気孔のお手入れ時期や、ほこりが詰まっていることを自動的にお知らせするソフトウェアです。
パソコン本体内部の温度や、本パソコンの総利用時間をチェックし、お手入れの時期をお知らせします。

■ 表示されるメッセージ

「お手入れナビ」の表示するメッセージには、次のものがあります。

メッセージ	原因と対処
パソコンの内部や通風孔のお手入れ時期が来ました。	定期的なお手入れの時期が来ると表示されます。 ご購入時の設定では、本パソコンの使用時間が2000時間を超えるごと（1日24時間の使用で83 日ごと）に表示されます。
	「7.2.2 パソコン本体外部のほこりを取る」（→P.102）および「7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る」（→P.103）をご覧になり、通風孔およびヒートシンク周辺のほこりを取ってください。
パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。	ファンが高速で回転しているのに、パソコン本体内部の温度が低くならない場合に表示されます
	「7.2.2 パソコン本体外部のほこりを取る」（→P.102）および「7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る」（→P.103）をご覧になり、通風孔およびヒートシンク周辺のほこりを取ってください。
パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。	次の場合に表示されます。 ・パソコン本体内部の温度が高いのに、ファンが回転していない場合 ・ファンの回転数が極端に少ない場合
	ファンの故障が考えられますので、シャットダウン後、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ 設定を変更する

本ソフトウェアの設定を変更することにより、パソコン本体内部や吸気孔のお手入れの通知時期を変更したり、メッセージを表示させないようにすることができます。
通知時期を変更する方法については、「お手入れナビ」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「お手入れナビ」のヘルプは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「お手入れナビ」→「ヘルプ」の順にクリックすると表示されます。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

8.1　トラブル発生時の基本操作 109
8.2　よくあるトラブルと解決方法 114
8.3　それでも解決できないときは 134

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1　状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか?また ゆるんだりしていませんか?
- 電源コンセント自体に問題はありませんか?
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか?
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか?
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか?
  キーが押され、パソコンが正常に動作しないことがあります。

このほか、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.116）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2　以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3 セーフモードで起動する

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。
起動方法は次のとおりです。

1 **本パソコンの電源を入れます。**

2 **「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
「詳細ブートオプション」が表示されます。
【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

重要

- インテル® AMT対応機種の場合、FUJITSUロゴが表示された後に「Press <Ctrl-P> to enter Intel(R) ME Setup」と表示されることがあります。表示が消えた後に【F8】キーを押してください。

3 **「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**

4 **管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。**
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

POINT

- セーフモードでも起動できない場合
手順3で「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択して、Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。

8.1.4 トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.114）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.5 Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

8.1.6　インターネットで調べる

弊社の富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本パソコンに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。また、注意事項や補足情報を公開しています。解決方法がないかご覧ください。

8.1.7　診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお知らせください。
診断時間は通常5～10分程度ですが、診断する内容やパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.4.5　ご購入時の設定に戻す」（→P.97）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
起動メニューが表示されます。

POINT

- BIOSセットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後、認証画面が消えた後、すぐに【Enter】キーを押してください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

3 【↓】キーを押して、「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。【Enter】キーを押してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6に進んでください。

● トラブルが検出された場合

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、キーボードの【Y】キーを押してパソコンの電源をお切りください。

6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

POINT

- 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
  診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

10 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

「システム回復オプション」ウィンドウが表示されます。

POINT

- 「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示された場合は「終了」をクリックし、終了を確認する画面で「OK」をクリックします。
  パソコンが再起動します。

12 「システム回復オプション」ウィンドウで「キャンセル」をクリックします。

パソコンを再起動するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

パソコンが再起動して、診断プログラムが終了します。

8.1.8　サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」（→P.134）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」（→P.116）
- 「ビープ音が鳴った」（→P.116）
- 「メッセージが表示された」（→P.116）
- 「画面に何も表示されない」（→P.117）
- 「Windowsが起動しない」（→P.117）
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.118）

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにログオンできない」（→P.119）
- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」（→P.119）
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.119）
- 「Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった」（→P.120）
- 「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」（→P.120）

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSのパスワードを忘れてしまった」（→P.121）

□ LAN

- 「ネットワークに接続できない」（→P.121）
- 「通信速度が遅い」（→P.121）

□ ハードディスク

- 「ハードディスクからカリカリ音がする」（→P.122）

□ デバイス

- 「機器が使用できない」（→P.122）

□ CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」（→P.122）
- 「ディスクが取り出せない」（→P.123）
- 「WinDVDが起動しない」（→P.123）
- 「DVDが再生されない、DVDの再生が円滑に行われない」（→P.123）

□ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」（→P.124）
- 「表示が乱れる」（→P.124）

□ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.125）
- 「マイクからうまく録音ができない」（→P.125）

□ ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.126）
- 「タッチパネルのポインター位置がずれる」（→P.126）

□ USB

- 「USBデバイスが使えない」（→P.126）
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.127）

□ プリンター

- 「プリンターを使用できない」（→P.127）

□ パソコン本体のお手入れ

- 「「パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。」「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された」（→P.127）
- 「「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された」（→P.127）

□ その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.128）

8.2.2　起動・終了時のトラブル

Q 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
- パソコン本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？

Q ビープ音が鳴った

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。**
  ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
  ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
  ・メモリのテストエラー
  メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
  メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
  ・PCIデバイス上でのROMエラー
  PCIデバイス上のROMでエラーが発生しています。オプションのPCIカードを取り付けている場合は、正しく取り付けられているか確認してください。
  メモリテストエラーの場合や、ディスプレイカード上のROMにエラーが発生した場合、画面には何も表示されません。

  上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。

Q メッセージが表示された

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」（→P.129）で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。**
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」（→P.132）をご覧ください。
- **周辺機器の取り付けを確認してください。**
  拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかどうかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

画面に何も表示されない

- **ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。**
  - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
  - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
  - ・デジタルディスプレイや複数台のディスプレイを接続している場合、パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
    必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
    パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
- **外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。（K551/Bの場合）**
  - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか?
    必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
    パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
  - ・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
    外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
    「2.3　マルチディスプレイ機能」（→P.25）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
  - ・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか?
    そのまま15秒くらい待っても液晶ディスプレイが表示されない場合は、本パソコンを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
    「2.3　マルチディスプレイ機能」（→P.25）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。

Windowsが起動しない

- **Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。**
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- **Windows起動時にセーフモードになり「キーボードの選択」画面が表示された場合は、そのままセーフモードで起動してください。**
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？

  ・セキュリティチップ

  認証デバイスを使用してWindowsにログオンしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
  認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
  Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にお問い合わせください。

Q Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。

  1. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押し、「シャットダウン」をクリックします。

  この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、30秒以上待ってから電源を入れてください。

重要

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

8.2.3　Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Q Windows にログオンできない

- セキュリティチップを使用し、「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windows にログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録し直す必要があります。
機器監査機能については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- セキュリティチップを使用して Windows にログオンしている場合、BIOS セットアップの設定を次のようにすると、Windows にログオンできなくなります。この場合、BIOS セットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。
・「セキュリティ」メニュー→「TPM（セキュリティチップ）設定」または「セキュリティチップ設定」→「セキュリティチップ」を「使用しない」に設定する。
- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windows にログオンできないときは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Q ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windows タスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ソフトウェアを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

Q 頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
・ウイルス対策ソフトウェアでハードディスクをスキャンする
定期的にハードディスクをスキャンすることをお勧めします。
・C ドライブの空き容量が充分か確認する
Windows のシステムファイルが格納されている C ドライブの空き容量が少ないと、Windows の動作が不安定になることがあります。
C ドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
・ごみ箱を空にする

・不要なファイルやソフトウェアを削除する
・ディスクのクリーンアップを行う
・ハードディスクのエラーチェックを行う
それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

Q Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった

- **24時間モデルをお使いの場合は、再起動してください。問題が解決する場合があります。**
- **カスタムメイドでHDD変更（SATA-RAID）を選択した場合、SATA-RAIDでリビルド中は充分なI/O処理性能が得られないため、ディスクアレイの状態によってシステムのパフォーマンス速度が低下します。**
  『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。

Q 「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- **「IndicatorUtility」で使用される「FUJ02B1デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。（K551/Bの場合）**
  「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02B1 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。
  表示されていない場合は、「FUJ02B1デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」（→P.78）の「ソフトウェア」から「IndicatorUtility」を選択します。
  ・Windows 7の場合
  表示されたフォルダー内の「Win7-64」フォルダーまたは「Win7-32」フォルダー→「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
  ・Windows Vistaの場合
  表示されたフォルダー内の「WinVista-32」フォルダー→「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
- **「富士通拡張機能ユーティリティ」で使用される「FUJ02E3デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。**
  表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は次のとおりです。
  「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」（→P.78）の「ソフトウェア」から「富士通拡張機能ユーティリティ」を選択します。
  ・Windows 7の場合
  表示されたフォルダー内の「Win7-64」フォルダーまたは「Win7-32」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
  ・Windows Vistaの場合
  表示されたフォルダー内の「WinVista-32」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

8.2.4　ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

Q BIOSのパスワードを忘れてしまった

- **管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。**
いずれの場合も修理が必要となります。
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.95）をご覧ください。

■ LAN

Q ネットワークに接続できない

- **ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？**
- **ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。**
・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか?
・使用するネットワーク環境に合ったケーブルをお使いください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

Q 通信速度が遅い

- **ネットワーク機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、本パソコンをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。**
ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本パソコンとネットワーク機器が接続されていることを確認後、パソコン本体を再起動してください。

■ ハードディスク

Q ハードディスクからカリカリ音がする

- **次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。**
  ・Windowsを終了した直後
  ・省電力状態（スリープ、休止状態）にした直後
  ・パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
  ・中断した状態から再度パソコンを操作した場合
  ・パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
  これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■ デバイス

Q 機器が使用できない

- **「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？**
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
  システム管理者に確認してください。
  ・USB
  ・CD/DVD
  ・フロッピーディスク
  ・シリアル
  ・パラレル

■ CD/DVD

Q ディスクからデータの読み出しができない

- **ディスクが正しくセットされていますか？**
  ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「2.6.3 ディスクをセットする」（→P.38）をご覧ください。
- **ディスクが汚れていたり、水滴が付いたりしていませんか？**
  汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- **ディスクが傷付いていたり、極端に反っていたりしませんか？**
  ディスクを交換してください。
- **規格外のディスクを使用していませんか？**
  規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、「2.6.2 使用できるディスク」（→P.36）をご覧ください。

ディスクが取り出せない

- **パソコン本体は動作状態になっていますか？**
  本パソコンのCD/DVDドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「2.6.4 ディスクを取り出す」（→P.39）をご覧ください。

WinDVDが起動しない

- **市販されているウイルス対策ソフトウェアを起動していませんか？**
  市販されているウイルス対策ソフトウェアと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトウェアを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「ノートン アンチウイルス 2011」は問題ありません。
- **自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェア（市販）をインストールしていませんか？**
  自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェアをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
  ウイルス対策ソフトウェアをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「ノートン アンチウイルス 2011」は問題ありません。

DVDが再生されない、DVDの再生が円滑に行われない

- **「WinDVD」を使用して、DVD-Videoを再生していますか？**
  「WinDVD」以外のソフトウェアで再生した場合、円滑に再生できないことがあります。
- **HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応したデジタルディスプレイを使用していますか？**
  デジタルディスプレイをお使いの場合、接続しているディスプレイがHDCPに対応していないと、著作権保護のされた映像を再生できません。HDCPに対応したデジタルディスプレイをお使いください。またはアナログディスプレイをお使いください。
- **「WinDVD」での再生時は、著作権保護のされた映像はパソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示することはできません。**
  DVD-Videoの再生方法や「WinDVD」の注意事項については、「2.6.6 DVD-Videoを再生する」（→P.42）をご覧ください。

■ ディスプレイ

Q 画面に何も表示されない

- 「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.116）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
  本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間マウスやキーボードからの入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「2.5 省電力機能」（→P.30）をご覧ください。

Q 表示が乱れる

- 解像度、色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
  「2.2.2 解像度を変更する」（→P.23）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
  1. ソフトウェアを最小化します。
  2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  - Windows起動時および画面の切り替え時
  - DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
  「5.2 インストール」（→P.78）をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。
  Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→P.110）。

■ サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- **内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。（スピーカー内蔵機種）**
  - ・スピーカーの出力はONになっていますか?
    スピーカーの出力を確認してください。
  - ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- **外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。**
  - ・パソコン本体と正しく接続されていますか?
  - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  - ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- **ミュートや音量などを確認してください。**
  詳しくは、「2.4　サウンド」（→P.28）をご覧ください。
- **音が割れる場合は、音量を小さくしてください。**
- **サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？**
  必要に応じて、「5.2　インストール」（→P.78）をご覧になり、再インストールしてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.4　サウンド」（→P.28）をご覧ください。
- **音声入出力端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「2.4　サウンド」（→P.28）をご覧になり、音声入出力端子の機能を正しく切り替えてください。

■ ポインティングデバイス

Q マウスポインターが動かない、正しく動作しない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？（マウス（ボール式）の場合）
  「7.1.2 マウス（ボール式）」（→P.100）をご覧になり、マウス内部をクリーニングしてください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合）
  オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- 次のようなものの上で操作していませんか？（光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合）
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

Q タッチパネルのポインター位置がずれる

対象　タッチパネル搭載機種

- タッチパネルを調整してください。調整方法については「2章　取り扱い」（→P.21）の「キャリブレーション」をご覧ください。

■ USB

Q USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。
  パソコンを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.122）

USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- **デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？**
  必要なドライバーをインストールしてください。
- **外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？**
  次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャー」
  2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルクリックします。
     「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  3. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- **「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.122）**

■ プリンター

プリンターを使用できない

- **「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.122）**

プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体のお手入れ（お手入れナビ搭載機種）

「パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。」「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された

- **ファンが高速に回転しているのに、パソコン本体内部の温度が低くならない場合に表示されます。**
  「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、パソコンをお手入れしてください。お手入れ方法については、「7章　お手入れ」（→P.98）をご覧ください。

「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された

- **パソコン本体内部の温度が高くなっているにもかかわらず、ファンの回転数が低下している場合に表示されます。**
  「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

■ その他

Q 「ジー」「キーン」という音がする

- **静かな場所では、「ジー」「キーン」というパソコン本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。**
  故障ではありませんので、そのままお使いください。
  BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」に「低電力モード」が表示されている機種の場合、「低電力モード」を「使用しない」に変更すると、音の聞こえ方が変わる場合があります。

8.2.5　エラーメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
記号	
＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
B	
Boot Failure Press any key to continue	OSが見つかりませんでした。BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。
BOOT: Couldn't find NTLDR Please insert another disk	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。
Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCI Parity Error Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCIパリティエラー	オンボードデバイスまたは拡張カードでエラーが発生しました。拡張カードが正しく接続されているかご確認ください。それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCI System Error Bus:xxh Dev:xxh Fun:xxh PCIシステムエラー	オンボードデバイスまたは拡張カードでエラーが発生しました。拡張カードが正しく接続されているかご確認ください。それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
C	
CPU Fan Error CPUファンエラーまたはCPUファンが接続されていません。	CPUファンが壊れていないこと、ファンの電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存せずに終了する（起動）」を実行してください。 CPUファンが正しく取り付けられている状態で本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
I	
Invalid system disk Replace the disk, and then press any key	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。
K	
Keyboard/Interface Error. キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	キーボードテストでエラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。 また、キーボードを接続せずにお使いになる場合は、エラーが表示されないようにBIOSセットアップの「詳細」→「キーボードエラー検出」を「使用しない」に設定してください。
N	
Non - System disk or disk errorReplace and press any key to ready	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

メッセージ	解説
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
O	
Operating system not found	OSが見つからなかったことを示しています。 BIOSセットアップの「起動」もしくは「詳細」メニューの、起動に関する設定が正しいかどうか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかどうかを確認してください。
P	
Press F1 to Resume Press F2 to Run SETUP <F1>キーを押すと継続します。 <F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	POST中にエラーが発生するとOSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すとOSの起動を開始します。【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」→「ネットワークからの起動」または「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」－「ネットワークからの起動」または「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」→「ネットワークからの起動」または「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」→「ネットワークからの起動」または「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」→「ネットワークからの起動」または「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」→「ネットワークからの起動」または「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。
R	
Remove disks or other media Press any key to restart	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。
S	
System CMOS checksum bad システムCMOSのチェックサムが正しくありません。	CMOSチェックサムが間違っています。すべてのBIOS設定項目が標準設定値に変更されました。本パソコンを起動するたびにメッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
System Disabled システムは使用できません。	誤ったパスワードが3回入力されました。

メッセージ	解説
か	
拡張メモリエラー。アドレス行：nn	メモリのテスト中に、アドレスnnでエラーが発見されたことを示しています。 メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品であるかどうかを確認してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボードエラーです。	キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボードコントローラエラー	キーボードコントローラーのテストで、エラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
さ	
システムCMOSのチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。	CMOS RAMのテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。 【F2】キーを押してBIOSセットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAMに設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムタイマーのエラーです。	システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュリティチップが見つかりません。	セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。	前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。 起動途中に電源を切ってしまった、またはBIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかった、または3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
た	
ディスクのエラーです。：ハードディスクn	ハードディスクドライブの設定にエラーがあることを示しています。 BIOSセットアップを起動し、「システム」メニューの「ドライブn」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
は	
日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定値が正しくありません。 設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「イベントログ設定」→「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
C	
CPUファンエラーが発生した	CPUファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
D	
Diagnostic Program found error (Code=nnnnnnnn) 診断プログラムが異常を検出（ 詳細コード＝nnnnnnnn）	診断プログラムがエラーを検出しました。 診断コードを記録し、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
P	
Password Failure パスワード入力不正	間違ったパスワードが3回入力されたため、パソコンの起動を中断しました。
POST Error: CMOS Checksum Error POSTエラー : CMOSチェックサムエラー	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POST Error: CMOS Time Not Set POSTエラー : 日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
POST Error: CPU Fan Error POSTエラー : CPUファンエラー	CPUファンのテストでエラーが発生しました。 CPUファンのケーブルが正しく接続されているか、またCPUファンの回転部分にケーブルや異物が挟まっていないか確認してください。
POST Error: Keyboard Not Functional POSTエラー : キーボードエラー	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POST Error: PCI Parity Error POSTエラー : PCIパリティエラー	拡張カードのテストでエラーが発生しました。 拡張カードが正しく取り付けられているか確認してください。
POST Error: PCI System Error POSTエラー : PCIシステムエラー	拡張カードのテストでエラーが発生しました。 拡張カードが正しく取り付けられているか確認してください。
POSTエラー：BIOSセットアップ不正による起動エラー	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：CMOSチェックサム不正	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した（ヘッダー情報）	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。

メッセージ	解説
POSTエラー：キーボードエラー	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
サーマルセンサーエラーが発生した	サーマルセンサーエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムが起動された	イベントログ設定の「システム起動」を「保存する」に設定した場合に、起動ごとに記録されます。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
システムファンエラーが発生した	システムファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
診断プログラムが異常を検出（詳細コード＝nnnnnnnn）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。
電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- ノートン アンチウイルス 2011
  株式会社シマンテック
  シマンテック・テクニカル・サポートセンター
  ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
  ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。
  （更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。）
  詳しくは、製品別サポートページ（http://symss.jp）を参照のうえ、お問い合わせください。
  更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。
  シマンテック・ストア
  URL：http://www.symantecstore.jp/users.asp
- i-フィルター
  デジタルアーツ株式会社
  デジタルアーツ株式会社 サポートセンター
  電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334
  受付時間：10:00～18:00（年末年始、指定休業日を除く）
  URL：http://www.daj.jp/faq/
  お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/
  90日間の試用期間中、サポートいたします。
- Adobe Reader
  ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- Windows Live メール

マイクロソフト株式会社「Windows Live Solution Center へようこそ」の Windows Live メールのヘルプページ（http://www.windowslivehelp.com/ページで「Mail」をクリック）からお問い合わせください。

・Mail ポータルの 解決策、フォーラム、および語句検索から疑問点の解決方法を検索します。

・疑問点の解決方法を検索し、解決しないときは各ページの「質問する」リンクからお問い合わせください。

- Quality Gaaiho PDF Suite

クオリティソフト株式会社
e-mail：sales@quality.co.jp
電話番号：0120-359-217
サポート時間：9:00-17:00

- CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

富士通株式会社
BI OnDemand　サポートデスク
ERP 事業本部　BI ソリューション部
ユーザーサポートサイト
URL：http://www.biondemand.jp/support/customer/pcbundle.html

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1　本体仕様 137
9.2　CPU 140
9.3　ディスプレイ 142
9.4　CD/DVD ドライブ 143

9.1 本体仕様

9.1.1 D570/B

製品名称			ESPRIMO D570/B	
CPU[注1]	名称		インテル® Core™ i5-520M プロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー P4500
	動作周波数		2.40GHz（最大2.93GHz[注2]）	1.86GHz
	コア数／スレッド数		2／4	2／2
	キャッシュメモリ		2次：256KB×2 3次：3MB	2次：256KB×2 3次：2MB
チップセット			モバイル インテル® HM55 Expressチップセット	
システムバス			2.5GT/s DMI[注3]	
メインメモリ	Windows 7 Professional （64ビット版）		標準2GB（1GB×2）[注4]（PC3-10600 DDR3 SDRAM SO-DIMM CL9）[注5] ECCなし最大8GB[注6]	
	Windows 7 Professional （32ビット版）		標準1GB（1GB×1）[注7]（PC3-10600 DDR3 SDRAM SO-DIMM CL9）[注5] ECCなし最大4GB[注8]	
メモリスロット	Windows 7 Professional （64ビット版）		×2（空きメモリスロット×0）	
	Windows 7 Professional （32ビット版）		×2（空きメモリスロット×1）[注9]	
表示機能	グラフィックアクセラレータ		Intel® HD Graphics（CPUに内蔵）	
	ビデオメモリ	Windows 7 Professional （64ビット版）	最大761MB（メインメモリと共用）[注10]	
		Windows 7 Professional （32ビット版）	最大249MB（メインメモリと共用）[注11]	
	解像度／発色数		最大1920×1200ドット／最大1677万色	
	DirectX		10	
	OpenGL		2.1	
ハードディスクドライブ[注12]	標準モデル		160GB（シリアルATA、7200rpm）	
	24時間モデル		80GB[注13]（シリアルATA、7200rpm）	
CD/DVDドライブ[注14]			CD/DVDドライブ[注15]	
オーディオ機能	オーディオコントローラー		チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック	
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数、最大192kHz、24ビット（再生時）[注16]、 サンプリング周波数、最大96kHz、16ビット（録音時）[注16]、 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
通信機能	LAN		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠、Wakeup on LAN対応[注17]	
セキュリティ機能	盗難防止用ロック取り付け穴		あり	
	筐体施錠		あり	

製品名称			ESPRIMO D570/B	
インターフェース	外部ディスプレイ（アナログ）		アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
	外部ディスプレイ（デジタル）		DVI-D24ピン×1	
	キーボード／マウス		PS/2準拠 ミニDIN 6ピン×2（キーボード用×1、マウス用×1）	
	USB[注18]		USB2.0準拠×6（前面×2、背面×4）	
	LAN		RJ-45×1	
	オーディオ		マイク：φ3.5mmモノラル・ミニジャック （入力：100mV以下、入力インピーダンス（AC）5kΩ以上（DC）2kΩ以上）、 ヘッドホン：φ3.5mmステレオ・ミニジャック （出力：1mW以上、負荷インピーダンス32Ω）、 ラインイン：φ3.5mmステレオ・ミニジャック、 ラインアウト：φ3.5mmステレオ・ミニジャック	
自己診断（POST時）			CPUファン停止検出	
拡張スロット			32bit/33MHz PCI（Rev.2.3準拠）（ハーフ：176mm×107mm）×2	
ストレージベイ	5インチベイ		前面×1（空きベイ×1）[注19]	
	3.5インチベイ		内部×1（空きベイ×0）[注20]	
電源／周波数			AC100V±10%、50/60Hz +2% -4%（入力波形は正弦波のみサポート）	
消費電力[注21]	電源オフ時[注22]		約1.0W以下	
	動作時[注23]（通常時／最大時[注24]／スリープ時）	Windows 7 Professional（64ビット版）	約14W／約61W／約1.9W	約18W／約61W／約2.1W
		Windows 7 Professional（32ビット版）	約14W／約60W／約1.9W	約18W／約60W／約2.0W
	最大消費電力[注25]（本体のみ）		約493W（約268W）	
定格電流	動作時		最大6.0A（アウトレット最大3Aを含む）	
外形寸法（突起部含まず）	縦置き		W89×D338×H332mm W179×D338×H344mm（フット装着時）	
	横置き		W332×D338×H89mm W422×D338×H101mm（フット装着時）	
質量			約6.5kg	
電波障害対策			VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム[注26]			対応[注27]	
温湿度条件			温度10～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストールOS[注28][注29]			Windows® 7 Professional（64ビット版）正規版、 Windows® 7 Professional（32ビット版）正規版	
サポートOS[注28]			Windows® 7 Enterprise（64ビット版）正規版、 Windows® 7 Enterprise（32ビット版）正規版、 Windows® 7 Professional（64ビット版）正規版、 Windows® 7 Professional（32ビット版）正規版、 Windows Vista® Business with Service Pack 2（32ビット版）正規版、 Windows® XP Professional正規版[注30]	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2　CPU」（→P.140）をご覧ください。

注2 ：インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー（→P.140）動作時

注3 ：DMIはDirect Media Interfaceの略です。

注4 ：カスタムメイドの選択によっては、4GBまたは8GBの場合もあります。

注5 ：PC3-8500として動作します。

注6 ：メモリ容量を8GBにするには、メモリの搭載状況により、搭載済みのメモリをすべて取り外してから、メモリ（拡張RAMモジュール -4GB）を2枚取り付ける必要があります。
例）1GBメモリが2枚搭載されている場合や、2GBメモリが2枚搭載されている場合など

注7 ：カスタムメイドの選択によっては、2GBまたは4GBの場合もあります。

注8 ：・メモリ容量を4GBにするには、メモリの搭載状況により、搭載済みのメモリをすべて取り外してから、メモリ（拡張RAMモジュール -2GB）を2枚取り付ける必要があります。
例）1GBメモリが1枚搭載されている場合や、1GBメモリが2枚搭載されている場合など
・4GB搭載時でも、OSの画面上の表示にかかわらず、OSが使用可能な領域は約3GBになります。
ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
・合計で2GBを超えるメモリを搭載した場合は、完全メモリダンプを使用できません。

注9 ：カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。

注10：Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大761MB
・メインメモリ4GB以上の場合：最大1695MB

注11：Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ1GBの場合：最大249MB
・メインメモリ2GBの場合：最大761MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1305MB

注12：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。

注13：カスタムメイドの選択によっては、160GBの場合もあります。

注14：カスタムメイドの選択によって搭載されています。

注15：CD/DVDドライブの仕様は、「9.4　CD/DVDドライブ」（→P.143）をご覧ください。

注16：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注17：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能はご使用になれません。
・省電力状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「■　WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.33）をご覧ください。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「6.4.3　Wakeup on LANを有効にする」（→P.96）をご覧ください。

注18：・すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
・外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

注19：カスタムメイドでCD/DVDドライブを選択した場合、「空きベイ×0」になります。

注20：2.5インチハードディスクドライブが搭載されています。

注21：ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。

注22：消費電力を0にするには、メインスイッチを「○」側に切り替えるか、ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注23：・ご使用になる機器構成により値は変動します。
・標準構成でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。

注24：・本パソコンで選択可能なカスタムメイドの最大構成での測定値です。
・測定プログラムは当社独自の高負荷試験テストプログラムを使用しています。

注25：アウトレット：3A/300VAを含んだ値です。

注26：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注27：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

注28：日本語版。

注29：いずれかのOSがプレインストールされています。

注30：Windows® XP Service Pack 3。

9.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いのパソコン本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® Core™ i5-520M プロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー P4500
インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー	○	×
インテル® ハイパースレッディング･テクノロジー	○	×
インテル® バーチャライゼーション･テクノロジー	○	○
拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー（EIST）	○	○
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	○	○

■ インテル(R) ターボ・ブースト・テクノロジー

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジーは、マルチコアの使用状況に合わせて、CPUが処理能力を自動的に向上させる機能です。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させるテクノロジーです。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシン・ソフトウェア）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

- この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」（→P.33）をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「［ソフトウェア名称］は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 解像度

本パソコンが出力可能な解像度です。
お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は、「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

解像度	対応	水平走査周波数（kHz）	リフレッシュレート（Hz）
800×600	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024×768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280×1024	○	64.0	60
		80.0	75
		91.1	85
1360×768	○注1	47.7	60
1440×900	○注1	55.9	60
1600×1200	○	75.0	60
		93.8	75
		106.3	85
1680×1050	○注1	64.7	60
1920×1080	○注1	67.0	60
1920×1200	○注1	74.0	60

注1 ：お使いの外部ディスプレイの液晶パネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

9.4 CD/DVD ドライブ

対象　CD/DVD ドライブ搭載機種

各数値は仕様上の最大値です。使用するディスクや状況によって異なる場合があります。
お使いのパソコン本体に搭載されているCD/DVD ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ注		DVD-ROM ドライブ	
	読込速度	書込速度	読込速度	書込速度
CD-ROM	40x	—	40x	—
CD-R	40x	40x	40x	—
CD-RW	40x	10x	40x	—
DVD-ROM	16x	—	16x	—
DVD-R（4.7GB）	10x	16x	8x	—
DVD-R DL（8.5GB）	8x	8x	8x	—
DVD-RW	8x	6x	8x	—
DVD+R（4.7GB）	10x	16x	8x	—
DVD+R DL（8.5GB）	8x	8x	8x	—
DVD+RW（4.7GB）	8x	8x	8x	—
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）	5x	5x	5x	—
DVD-RAM2	12x	12x	—	—

注 ：バッファーアンダーランエラー防止機能付

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **ハードディスクのデータを消去していますか？**
  パソコン本体に内蔵されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  ハードディスク内のデータ消去については、「4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.65）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  本製品を廃棄する場合は、お申し込みホームページ（http://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

索引

A

Adobe Reader 73, 134

B

BIOS
　ーイベントログ 97, 132
　ーエラーメッセージ 129
　ーパスワード 93
BIOSセットアップ 83
　ー起動する 84
　ー終了する 85

C

CD/DVD ドライブ
　ー書き込み 40
　ー再生 42
　ー仕様 143
　ー使用できるディスク 36
　ーセット 38
　ー取り出し 39
CPU 140
CRYSTAL REPORTS 2008
　for FUJITSU 73, 135

D

DEP 141
DVD-Video 42

E

Easy Backup 68, 73
EIST 140

G

Google ツールバー 73

I

IndicatorUtility 73
i-フィルター 71, 80, 134

L

LAN 43
LANコネクタ 58

M

Microsoft Office 76, 80

P

PC乗換ガイド 72
Portshutter 62, 71

Q

Quality Gaaiho PDF Suite 73, 80, 135

R

Roxio Creator 40, 75

S

SMARTACCESS/Basic 71, 80
Systemwalker Desktop Patrol Lite 74

U

UpdateAdvisor 61, 72
USBコネクタ 56

W

Wakeup on LAN 31, 33, 96
Windows Live メール 75, 135
Windows Update 61
WinDVD 42, 75

あ行

アウトレット 14
アンインストール 81
イベントログ 97, 132
インストール
　ーi-フィルター 80
　ーMicrosoft Office 80
　ーQuality Gaaiho PDF Suite 80
　ーSMARTACCESS/Basic 80
　ーノートン アンチウイルス 2011 . . . 80
インテル(R) ターボ・ブースト・
　テクノロジー 140
インテル(R) バーチャライゼーション・
　テクノロジー 140
インテル(R) ハイパースレッディング・
　テクノロジー 140
インレット 14
エグゼキュート・ディスエーブル・
　ビット機能 63, 141
エラーメッセージ 116, 129
お手入れナビ 74, 107
お問い合わせ先 134
音声入出力端子 57
音量調節
　ー機器／項目 29
　ー全体 28
　ーソフトウェア 28
音量ミキサー 28

か行

解像度 23, 142
拡大表示設定 24
拡張カード 51
拡張デスクトップ表示 25, 26
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー
　（EIST） 140
キーボード
　ーお手入れ 99
起動デバイス 96
起動メニュー 86
吸気孔 12
休止状態 30
クローン表示 25, 26
コンピューターウイルス 60

さ行

サポートナビ 72
シャットダウン 32
省電力状態 30, 31
　ー休止状態 30
　ースリープ状態 30
シングル表示 25, 27
診断プログラム 111
スリープ状態 30
セーフモード 110
セキュリティ施錠金具 64
セキュリティチップ 62

た行

ディスプレイ 23
　ー解像度 142
　ー解像度の変更 23
　ー拡大表示設定の変更 24
　ー拡張デスクトップ表示 26
　ークローン表示 26
　ーシングル表示 27
　ーマルチディスプレイ機能 25
ディスプレイコネクタ 55
データ実行防止（DEP）機能 141
電源プラン 33
電源を切る 32
盗難防止用ロック 64
ドライバーズディスク検索ツール 78

な行

ノートン
　アンチウイルス 2011 . . . 60, 71, 80, 134

は行

ハードディスクデータ消去 66
ハードディスクパスワード 93
廃棄 65, 144
排気孔 14
ハイブリッドスリープ 30, 34
パスワード
　ーBIOS 93
バックアップ 68
ビープ音 116
ファイルラック 17
富士通拡張機能ユーティリティ 74
富士通モニタユーティリティ 74
フット 13
ヘッドホン端子 57
本体カバー 46

ま行

マイク端子 57
マウス 22
　ーお手入れ 99
マルチディスプレイ機能 25
　ー拡張デスクトップ表示 25
　ークローン表示 25
　ーシングル表示 25
メインスイッチ 14
メモリ 48
　ー取り付け 49
　ー取り外し 50

や行

ゆったり設定2 75

ら行

ラインアウト端子 57
ラインイン端子 57
らくらくズーム 75
リージョンコード 42
リサイクル 144
レジューム 31

Memo

ESPRIMO
D570/B

製品ガイド
B6FJ-5341-02-00

発 行 日　2011年7月
発行責任　富士通株式会社

● このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
　その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
● 無断転載を禁じます。
● 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㋐